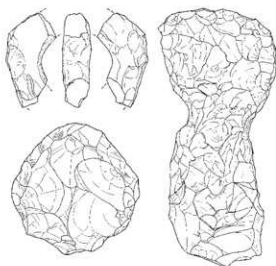


石川県 金沢市

畝田◎寺中遺跡Ⅷ

－木曳野遺跡群Ⅵ－



平成25年3月
(2013年)

金 沢 市
(金沢市埋蔵文化財センター)

石川県 金沢市

畝田・寺中遺跡Ⅷ

－木曳野遺跡群Ⅵ－

平成25年3月

(2013年)

金 沢 市
(金沢市埋蔵文化財センター)

例 言

1. 本書「畝田・寺中遺跡Ⅱ」は、石川県金沢市寺中町、畝田西4丁目、桂町地内に所在する事業名：木曳野遺跡群（寺中B遺跡、桂町南遺跡、畝田・寺中遺跡）の発掘調査報告のうち、平成15年度に実施した畝田・寺中遺跡の調査の一部について報告するものである。
2. 本調査は金沢市木曳野土地区画整理組合による土地区画整理事業に伴い、平成15年度に金沢市埋蔵文化財センターが発掘調査を実施したものである。
3. 本報告にかかる現地調査は金沢市埋蔵文化財調査委員会（会長 橋本澄夫氏、谷内尾晋司氏、垣田修児氏、横山方子氏）の指導の下で、谷口宗治（文化財保護課主査）が担当した。
4. 本書は景山和也（文化財保護課主査）と向井裕知（同 主任主事）が執筆し、編集は向井が担当した。写真撮影は遺物を景山が行い、遺構を谷口が行った。
5. 本書の各図及び写真図版の指示は以下のとおりである。
 - （1）方位は全て座標北である。座標は世界測地系（第Ⅶ系）に基づき設定している。
 - （2）各図の縮尺は、遺物は1/2・1/3・1/6、遺構は1/60が主であるが、各図に指示しているとおりである。
 - （3）遺物実測図の番号は通し番号とし、それぞれの本文中、観察表、写真図版のそれと一致する。
 - （4）遺構名の略号は、SB＝掘立柱建物、SE＝井戸跡、SK＝土坑跡、SD＝溝・川跡、SX＝落ち込み・土器だまり跡などであるが、略号を用いず大河跡とした遺構がある。
 - （5）土器については「壺」・「甕」・「高坏」・「器台」などと表記するが、用途を示すのではなく、形態による分類で、「壺形土器」などの略称である。
 - （6）土器実測図の断面が黒色のものは須恵器を、その他のものは白抜きで示している。また、実測図内外面の目の粗いドットは黒色処理を、細かいものは赤彩処理を、細かな砂目状のものは灯明痕を示している。
6. 本調査での出土遺物、記録資料は金沢市埋蔵文化財センターで保管している。

畝田・寺中遺跡Ⅷ 目次

第1章 調査箇所と報告の内容	1
第1節 調査箇所と既往の報告内容	
第2節 本書の報告について	
第2章 遺跡の位置と環境	5
第1節 地理的環境	
第2節 歴史的環境	
第3章 検出遺構	7
第1節 概要	
第2節 掘立柱建物・ピット	
第3節 井戸・土坑	
第4節 溝・川	
第4章 土器・陶磁器	(以上、向井) 11
第1節 概要	
第2節 掘立柱建物・ピット	
第3節 井戸・土坑	
第4節 溝・川	
第5節 遺構外	
第5章 石製品	(景山) 48
第1節 概要	
第2節 石製品	
第6章 総括	(向井・景山) 55
第1節 遺跡の様相	
第2節 畝田・寺中遺跡の玉づくりについて	

写真図版

第1章 調査箇所と報告の内容

第1節 調査箇所と既往の報告内容

今回報告する畝田・寺中遺跡の発掘調査は、金沢市木曳野土地区画整理事業に伴うものである。

遺跡の発見から発掘調査へ至るまでの経緯は既刊の報告書を参照願いたい（金沢市2006）。

本事業による調査箇所は第1図のとおりである。調査時には、補助事業主体の名称として県費分A～C区、道路名称によって主幹線1～5区、支線部などと呼称して調査を実施しており、既刊報告書の報告内容との対応については第1表および第2図のとおりである。

木曳野遺跡群Ⅰ（以下Ⅰ、Ⅱ等とする）では、調査に至る経緯や縮尺1/300、1/100遺構平面図版と共に植生や環境復元、木材・石材利用把握のための自然科学分析結果を掲載している。

Ⅱでは、寺中B遺跡と畝田・寺中遺跡内の桂・寺中遺跡として調査を実施した箇所の調査成果を掲載している。

Ⅲでは、桂町南遺跡と畝田・寺中遺跡の県費分A～C区の調査成果を掲載している。また、畝田・寺中遺跡の桂・寺中遺跡部分を除いた、縮尺1/500の畝田・寺中遺跡図版が別紙で用意されている。

Ⅳでは、畝田・寺中遺跡の主幹線1区と2区のSD222、SD303（大河跡）の調査成果を掲載している。

Vでは、畝田・寺中遺跡の主幹線3区の調査成果と1区SD222、包含層、2区P20、SD222、SD240、SD244、SD303、4区大河跡出土の墨書土器を掲載している。

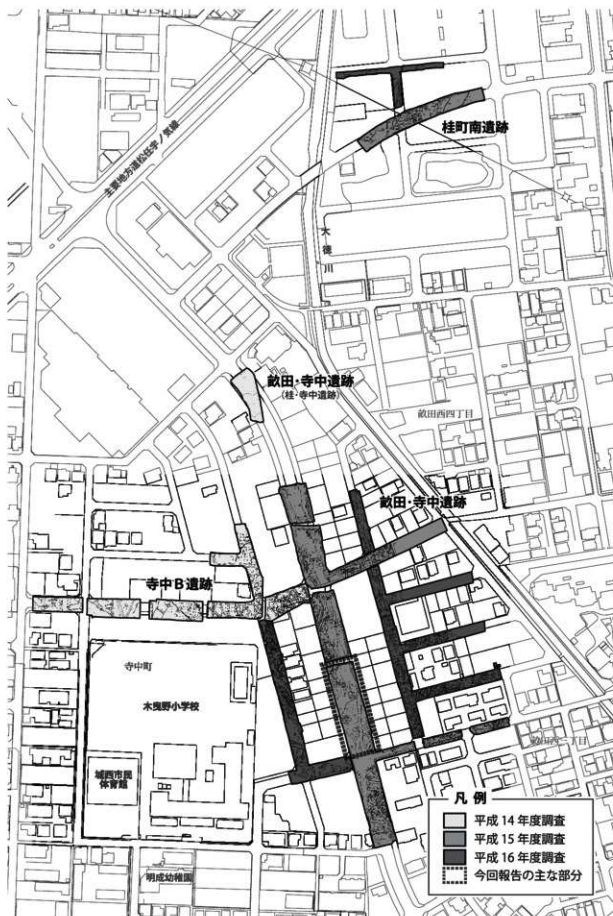
第1表 報告書の内容

紀要No	書名	内容	発行年
231	木曳野遺跡群Ⅰ 寺中B遺跡Ⅵ 桂町南遺跡Ⅰ 畝田・寺中遺跡Ⅲ	調査に至る経緯・経過、航空測量図版、自然科学分析	2006
239	木曳野遺跡群Ⅱ 寺中B遺跡Ⅶ 畝田・寺中遺跡Ⅳ	寺中B遺跡〔報告完〕 桂・寺中〔畝田・寺中〕遺跡	2007
249	木曳野遺跡群Ⅲ 桂町南遺跡Ⅱ 畝田・寺中遺跡Ⅴ	桂町南遺跡〔報告完〕 畝田・寺中遺跡〔県費分A・B・C区〕	2008
259	木曳野遺跡群Ⅳ 畝田・寺中遺跡Ⅵ	畝田・寺中遺跡（主幹線1区・2区SD222、SD303）	2010
279	木曳野遺跡群Ⅴ 畝田・寺中遺跡Ⅶ	畝田・寺中遺跡（主幹線3区・2区墨書土器 〔1区・4区含〕）	2012
288	木曳野遺跡群Ⅵ 畝田・寺中遺跡Ⅷ	畝田・寺中遺跡（主幹線2区土器・陶磁器・石製品）	2013

第2節 本書の報告について

第1表および第2図のとおり、寺中B遺跡と桂町南遺跡の報告は終了しているが、調査面積が広く、遺物も大量に出土している畝田・寺中遺跡については、多くが未報告となっている。これまでに、県費分A～C区、主幹線1区、同3区、同2区の一部が報告済みであり、本書は主幹線2区の遺構および土器・陶磁器について報告するものである。紙幅の都合で本報告から漏れる木製品と金属製品については、次回以降となるがご了承願いたい。

なお、本書刊行後の未報告範囲は主幹線2区木製品・金属製品、同4区、同5区、支線部、西工区、東工区、鉾津の自然科学分析、樹種同定分析となり、順次刊行していく予定である。



第1図 調査区位置図 (S=1/3,000)

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

畝田・寺中遺跡は石川県金沢市畝田町、寺中町地内に所在する。

石川県は本州日本海側のほぼ中央に位置している。北方は日本海に面し、南方は福井県、岐阜県、富山県と接する南北に細長い県であり、日本海に突き出た能登地方とその南の加賀地方に分けられる。金沢市は加賀地方の北部に位置しているが、その西部は日本海に接し、南東部には海拔1,500mを超える山地をかかえる。この山地からは市域を西流する浅野川と犀川が流れ、浅野川は河北潟へ、犀川は日本海へ注ぐ。市域西部の平野部では両河川に挟まれた地域に市街地が形成されている。また、犀川を境として、北部平野と南部平野に分かれ、前者は犀川・浅野川やその北部を流れる金腐川・森下川によって形成された沖積平野であり、後者は手取川が形成する扇状地の北辺である。

本遺跡は市内の北西部、現在の海岸線からは約2km内陸側に位置しており、周辺は海岸線に沿って南北に延びる内灘砂丘の背後湿地を形成している。また、南側を西流する犀川からの分流が本地域を北流し、北側を西流する大野川へと流れ込むことから、ますます湿潤な環境を形成している。

第2節 歴史的環境

畝田・寺中遺跡の周辺に分布する遺跡を時代毎に概観すると、まず縄文時代には後期中葉と晩期後葉の松村A遺跡(59)や晩期の土器・石器が出土する本遺跡(1)があり、近岡遺跡(46)では昭和45年の調査で花粉分析から縄文晩期の農耕について話題になった。

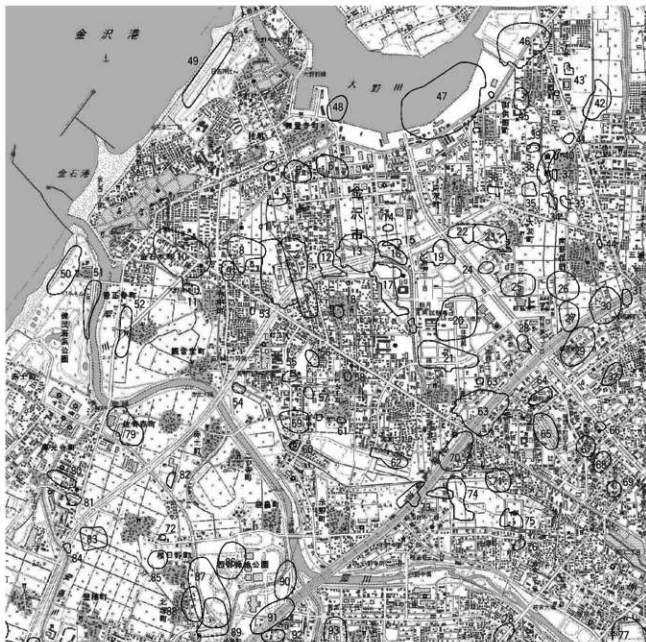
弥生時代は畝田C遺跡(13)などで遠賀式土器が出土しており、前期の遺跡も増えてきたが、中期以降増加する傾向にあり、西念・南新保遺跡(29)のような後期へ繋がる拠点集落も出現する。戸水B遺跡(20)、戸水C遺跡(47)、藤江C遺跡(21)などで前期からの遺物が確認されており、本遺跡においては中期から遺物が確認されている。後期・終末期になると遺跡数は更に増加するが、大方は中期後半から継続して営まれている遺跡である。

古墳時代は弥生終末期の遺跡が継続されることが多いが、中・後期になると激減し、本遺跡の他、周辺では藤江B遺跡(63)で確認できる。当該期の須恵器を多く確認している本遺跡や藤江C遺跡などが中・後期の拠点集落になる可能性があり、本遺跡に関しては弥生時代終末から7世紀代まで継続して確認できる稀有な事例である。

奈良・平安時代は再び遺跡が広く分布し、犀川や大野川河口周辺に津湊関連遺跡や官衙・荘園関連遺跡が出現する。本遺跡においても、8世紀前半から中頃の大規模集落が確認され、遺構の規模や「津司」墨書土器から金石本町遺跡(10)と一連の港湾関連遺跡と考えられている。また、石川県調査区から遺跡海使が帰国した「天平二年(730年)」の記年銘墨書土器が出土しており、その際の饗応に使用された可能性が指摘されている。また、近隣の畝田ナベタ遺跡(17)からは大陸産とされる青銅金箔張の帯金具(巡方)が出土しており、具体的な大陸との交流を物語る遺跡群といえる。

鎌倉・室町時代は、本遺跡も含めて当該期の遺跡が広く分布している。本遺跡では、堀で囲繞された方二町×一町半程度の空間が検出されている。南新保北遺跡(44)では銭の出納に関わる付札木簡が出土している。戸水C遺跡は古代以来の津湊関連遺跡と評価されている。

本遺跡は、大野荘流域を含む大野荘内(一時期は富永御厨内か)に所在する。畝田地名の初見は日本霊異記「大野郷畝田村」であり(金沢市1998)、平安時代にはその名が認められる。中世には「字欄田村」、「字根田村」、「字祢田村」、「うね田村」などとみえる。



- | | | |
|------------------------|-------------------------|------------------------|
| 1 越田・寺中遺跡 (弥生~中世) | 32 西念東遺跡 (弥生) | 63 藤江B遺跡 (弥生~平安) |
| 2 越田遺跡 (縄文~平安) | 33 直江ギンシロ遺跡 (縄文~室町) | 64 二口六丁B遺跡 (弥生・古墳) |
| 3 越田大工遺跡 (縄文~平安) | 34 大工下遺跡 (弥生~平安) | 65 二口六丁A遺跡 (弥生・古墳) |
| 4 新町南遺跡 (弥生~中世) | 35 大友A遺跡 (奈良・平安) | 66 西念タギタ遺跡 (弥生・古墳) |
| 5 無量寺B遺跡 (古墳) | 36 大友D遺跡 (弥生・平安) | 67 西念タギタ遺跡 (縄文・古墳) |
| 6 無量寺遺跡 (古墳・中世) | 37 直江ニシヤ遺跡 (古墳~室町) | 68 二口シズ遺跡 (弥生・古墳) |
| 7 越田遺跡 (弥生・古墳・中世) | 38 大友B遺跡 (古墳~平安) | 69 二口町遺跡 (弥生・古墳) |
| 8 寺中B遺跡 (縄文~平安) | 39 近岡カシタ遺跡 (弥生~奈良) | 70 藤江A遺跡 (奈良・平安) |
| 9 寺中遺跡 (弥生) | 40 直江西遺跡 (弥生~古墳) | 71 北町遺跡 (縄文) |
| 10 金沢本町遺跡 (弥生~平安) | 41 直江中遺跡 (縄文~室町) | 72 御前前遺跡 (古墳) |
| 11 寺中前名跡 (江戸) | 42 直江北遺跡 (縄文~平安) | 73 坂田・示野中遺跡 (弥生・平安) |
| 12 越田B遺跡 (弥生~平安) | 43 近岡タギタ遺跡 (弥生~平安) | 74 出雲じいさまだ遺跡 (古墳~室町) |
| 13 越田C遺跡 (縄文~平安) | 44 南新保北遺跡 (古墳~中世) | 75 兼松遺跡 (弥生) |
| 14 無量寺D遺跡 (弥生~平安) | 45 近岡カシタ遺跡 (弥生・奈良・平安) | 76 若宮遺跡 (室町) |
| 15 無量寺C遺跡 (弥生・平安) | 46 近岡遺跡 (縄文~中世) | 77 新川鉄橋遺跡 (縄文~古墳) |
| 16 越田・無量寺遺跡 (弥生・奈良・平安) | 47 江戸C遺跡 (縄文~中世) | 78 玉井B遺跡 (奈良・平安) |
| 17 越田サキ遺跡 (奈良・平安) | 48 無量寺合祀遺跡 (縄文~古墳) | 79 寺中遺跡 (弥生・平安~江戸) |
| 18 御前前遺跡 (不明) | 49 金沢北遺跡 (不詳) | 80 寺光寺染地遺跡 (古墳) |
| 19 江戸D遺跡 (奈良・平安) | 50 普正寺舎屋跡丘遺跡 (縄文・奈良・平安) | 81 寺光寺染地遺跡 (古墳~平安) |
| 20 江戸B遺跡 (弥生・平安) | 51 普正寺遺跡 (縄文~室町) | 82 寺中遺跡 (弥生) |
| 21 藤江C遺跡 (弥生~室町) | 52 普正寺高島遺跡 (古墳・鎌倉) | 83 吉原寺光寺 (室町) |
| 22 江戸サキ遺跡 (奈良・平安) | 53 寺中町南遺跡 (古墳) | 84 藤江遺跡 (奈良~室町) |
| 23 大友C遺跡 (不詳) | 54 藤江堂日遺跡 (弥生~室町) | 85 藤江野遺跡 (縄文・古墳) |
| 24 大友B遺跡 (不詳) | 55 藤江堂遺跡 (弥生) | 86 西念・北城C遺跡 (古墳~平安) |
| 25 南新保北遺跡 (弥生~鎌倉) | 56 松村西の城遺跡 (古墳・平安) | 87 北城B遺跡 (平安) |
| 26 南新保C遺跡 (古墳前) | 57 松村平田遺跡 (弥生・中世) | 88 北城A遺跡 (縄文・弥生・平安~室町) |
| 27 南新保・北田遺跡 (弥生・平安) | 58 松村寺の城遺跡 (室町) | 89 北城C遺跡 (古墳) |
| 28 フツ屋町遺跡 (弥生・平安) | 59 松村A遺跡 (縄文・古墳・鎌倉・室町) | 90 寺光寺カギタ遺跡 (弥生・平安) |
| 29 西念・南新保遺跡 (弥生~平安) | 60 松村のまえ遺跡 (弥生・中世) | 91 寺光寺カギタ遺跡 (弥生~平安) |
| 30 南新保D遺跡 (弥生) | 61 松村B遺跡 (縄文・弥生・江戸) | 92 寺光寺カギタ遺跡 (弥生) |
| 31 南新保B遺跡 (弥生) | 62 松村高見遺跡 (弥生・中世) | 93 高島遺跡 (弥生・古墳) |

第3図 遺跡の位置と周辺の遺跡分布図 [S=1/30,000]

第3章 検出遺構

第1節 概要

本遺跡では、掘立柱建物、堅穴系建物、布柱建物、櫓列、井戸、土坑、区画溝、川跡などを検出しているが、本書で対象としている主幹線2区(以下、調査区)では掘立柱建物、井戸、土坑、溝、川を検出しており、主に古墳時代、奈良時代、平安時代、鎌倉時代のものがみつまっている。

遺構平面図については、『木曳野遺跡群Ⅰ』で各図を掲載したために本書では未掲載だが、第5図に今回報告対象となる調査区とその南北に接する同1区および3区の遺構全体図と各遺構名を示した。また、第2図に木曳野遺跡群の全体図と建物や井戸、溝など主な遺構名を示したものを掲載した。『木曳野遺跡群Ⅱ』～『木曳野遺跡群Ⅶ』については、報告対象とする個別遺構が遺跡の中でどこに位置するかが図示されていないので、本図を参照いただきたい。

第2節 掘立柱建物・ピット

SB508(第4図) 調査区の中央、SD244の東岸、SD222の西岸に所在する桁行3間×梁行2間の側柱建物である。南東側の梁行1間分は他遺構との重複による未検出柱穴や柱並びが若干ずれていることから当該建物柱列には該当しない可能性がある。桁行柱間距離は約1.5～1.7m、梁行柱間距離は約1.3～1.4mである。主軸方位はN-51°-Wである。古墳時代前・中期の土器片が出土している。

SB701(第5図) 報告書の図面作成後に把握したために、個別図は掲載していない。調査区の北半、SD240とSD244の合流点西岸に所在する桁行3間×梁行2間の側柱建物である。東側と西側に各1間分が延びる可能性があるが、他遺構との重複などによって詳細不明である。桁行柱間距離は北側の2間分が約2.7m、南側は約2.3m、梁行柱間距離は約2.4～2.6mである。主軸方位はN-7°-Wである。P1とP3が柱穴に該当し、古墳時代前期頃の土器片が出土している。

第3節 井戸・土坑

SE251(第5図) 調査区の北半西側に所在する素掘りの井戸状遺構である。掘方は楕円形状を呈し、長径約1.3m、短径約1m、深さ約1.4mで、14世紀頃の土師器皿などが出土している。

SE252(第5図) 調査区の北西端に所在する素掘りの井戸状遺構である。形状は不明だが、検出した掘方の最大長は約1.4m、深さ約0.64mで、最新の遺物は13世紀頃の珠洲焼が出土している。

SK208(第4図) 調査区中央西寄り、SB508と重複して検出した不整形土坑である。建物との前後関係は不明である。8世紀代の須恵器などが出土している。

SK209(第4図) 調査区中央、SD222とSB508の間に所在する不整形土坑である。SB508と重複する土坑もSK209とされているが、調査時の混乱によるものであり、両土坑共にSK209である。

SK279(第4図) 調査区南半に所在する土坑で、調査区壁とSD259により、形状は不明である。

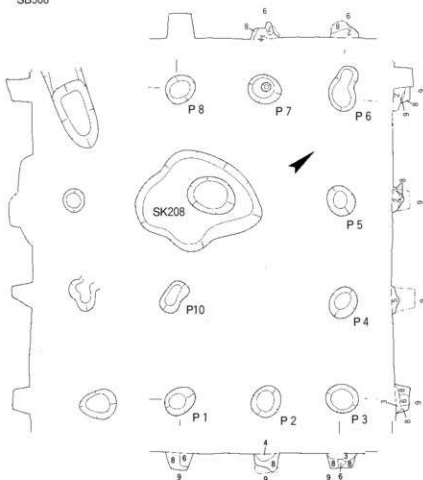
第4節 溝・川

SD240・244(第5図) 調査区北半の大規模河川である。SD244、主幹線1区SD303、同3区SD201と同じ川と考えられる。詳細は既刊書(木曳野遺跡群Ⅴ・Ⅵ)に詳しい。

SD222(第4図) 県調査区と併せると南北220m、東西170m、方二町×一町半程の空間を圍繞する箱堀であり、12～14世紀代の遺物が出土している。詳細は既刊書(木曳野遺跡群Ⅴ・Ⅵ)に詳しい。

SD259(第4図) SD222と重複するし字に折れる溝である。

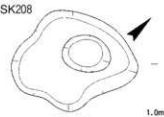
SB508



SB508

1. 暗灰色粘質土
2. 暗灰色粘質土 (有微物混)
3. 暗灰色粘質土 (有微物混)
4. 暗灰色粘質土
5. 暗灰色粘質土 (有微物混)
6. 暗灰色粘質土 (柱痕み)
7. 暗灰色粘質土 (柱痕み)
8. 暗灰色粘質土
9. 地山

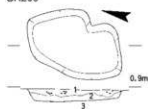
SK208



SK208

1. 暗灰色粘質土
2. 明茶褐色粘質土 (地山ブロック混)
3. 地山

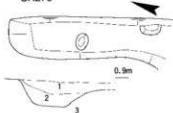
SK209



SK209

1. 暗灰色粘質土
2. 暗灰色粘質土 (地山ブロック混)
3. 地山

SK279



SK279

1. 暗灰色粘質土
2. 暗灰色粘質土
3. 地山

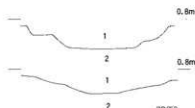
SD222



SD222

1. 暗灰色粘質土
2. 明茶褐色粘質土 地山

SD259



SD259

1. 暗灰色粘質土
2. 地山



第4図 SB508、SK208、209、279、SD222、259 (S=1/60)

第4章 土器・陶磁器

第1節 概要

本書で報告する出土遺物の大半は古墳時代と奈良時代から平安時代初頭のものであり、川跡から出土している。第2節から遺構毎に報告するが、紙幅の都合により、その遺構の年代を示すものや特殊なものなどを主に取り上げる。個々の遺物の法量や調整等は第2表を参照願いたい。第2表遺構欄の「●区」は「主幹線●区」を示している。また文中の分類や年代観については、参考文献に記した各論考を参照願いたい。

第2節 掘立柱建物・ピット

SB508(第6図) P4から1の古墳時代の須恵器坏身が出土している。和泉陶邑窯編年(田辺1981、以下古墳とする)TK208～同47型式が想定される。

ピット(第6図) 本調査区内においてピットから出土した遺物について、比較的残り具合の良いものを掲載したが、P4～24の位置情報が遺構図からは欠落している。調査時の図面を全て見返したが該当する記述はなく、結果として不備なものとなってしまった。お詫び申し上げたい。

2～8が出土している。4・5と7・8は同一ピットからの出土である。2～5は奈良時代の須恵器で、田嶋編年(田嶋1988、以下古代とする)Ⅲ～Ⅳ1期の有台坏と無台坏である。

8は口縁端部が肥厚するいわゆる布留甕であり、6も若干肥厚が見られる。古墳時代前期のものである。

第3節 井戸・土坑

SK208(第6図) 9～17が出土している。9・10は古代Ⅳ期頃、11・13はⅢ期、12はⅢ～Ⅳ1期、14はⅤ期頃が想定される。15・16は古墳時代の土器で混入と考えられ、17は須恵器同様に奈良時代から平安時代初頭のものであろう。

SE251(第6図) 18のでづくね土師器小皿が出土している。13世紀後半から14世紀頃のものであろう。

SE252(第6図) 19・20が出土している。20は珠洲焼甕で、口縁部形態から珠洲焼編年(吉岡1994)Ⅱ期の製品で13世紀前半頃の年代が考えられる。

第4節 溝・川

SD222(第7図) 21～30が出土している。SD222の時期を示すものは27のでづくね土師器皿で、磨滅によりヨコナデの痕跡は見えにくい、僅かに残る稜からナデ幅は狭いことがわかる。口縁部の残り具合が悪く、図はど口径は大きくならないと考えられ、13世紀代の年代が考えられる。

21、23、25、26、28は古墳時代の製品であり、21は古墳MT15型式前後が想定される。25は胴部中に描き列点文を施す甕、28は鍋・瓶などの把手である。

22・24は奈良時代後半から平安時代初頭頃の須恵器蓋と無台坏で古代Ⅳ期頃が想定される。29・30は底部糸切りの赤彩土師器碗である。

SD222・303(第7図) 31～38が出土している。32～35は古代Ⅲ～Ⅳ期が想定される蓋と有台坏で、35は口縁部に打ち欠きがみられるため図化している。意図的な打ち欠きが想定される場合は、本図のような表現をしている。37は内外面ミガキ調整の後、赤彩を施した土師器碗である。須恵器と同様の時

期が想定される。

SD303(第8図) 39～52が出土している。39～46は須恵器蓋で、古代Ⅳ期が想定される。43は打ち欠きの表現がなされているが、意識的な打ち欠きであるか定かではない。47～52は須恵器有台坏等で、蓋同様に古代Ⅳ期が想定されるが、48は稜碗等の特殊器種もしくは底部からの立ち上がりか緩やかな古代Ⅱ期頃の有台坏の可能性が考えられる。52は打ち欠き部に灯明痕が見られるが、打ち欠いて使用したものか、廃棄後に被熱したものかは不明である。

SD240(第8～20図) 53～290が出土している。弥生時代から室町時代の遺物が出土しているが、本流は古墳時代から平安時代に機能していたと考えられ、平安時代末頃から鎌倉時代初頭の遺物群は本流を切って流れる別の流路(明確なプランは検出できていないが、3区SD222に繋がると想定される)に由来し、その他の遺物は周辺からの混入と考えられる。

53～73は54を除いて古墳時代の壺、甕である。57は口縁部に穿孔が1ヶ所見られるが、口縁部残存率が3/12であるため、複数ヶ所の穿孔を伴う可能性がある。65は胴部が長胴形を呈す甕で、外面全体と口縁部内面に煤が付着している。70・71は小型甕であり、71は胴部に焼成後穿孔を有するが、破損のために形状は不明である。73は外面全体に煤、内面下半にコゲ・ヨグレが付着している。74～76、78は甕と考えている。78は外面に煤、内面のはほぼ全体にヨグレが付着している。77は鍋であろうか。79～82は甕や鍋の把手と考えている。83は古墳時代の小型甕か、弥生時代の甕の底部であろう。84～117は古墳時代中・後期の土師器・須恵器である。84～93は土師器碗であり、87～92は内面黒色処理を施している。また、底部が見つからないものは94・95のような台が付く可能性がある。90は口縁部に焼成後穿孔が1ヶ所見られるが、破損により孔の全形は不明である。93は口縁部の残存率が1/12以下であり、口径の復元径に不安が残る。碗としたが、外面に煤、内面には煤もしくはヨグレが付着しており、煮炊きなどに用いた可能性がある。97～106は坏蓋である。97は古墳TK23～47、98～102はMT15～TK10、103～106はTK43～209型式が想定される。107～113は坏身である。107は古墳MT15、108～111はTK47～MT15、112・113はTK43型式が想定される。114は無蓋高坏の坏部で、底部近くに描き列点文を廻らす。116・117は比較的大型の甕である。

119～276は奈良時代から平安時代の製品である。119～134は須恵器蓋で、概ね古代Ⅳ期の製品が多く、Ⅲ期の製品も見られる。産地は高松窯産が多く、末窯産も一定量見られる。これは次に述べる有台坏、無台坏でも同様である。134は輪状の摘みをもつ金沢末窯産と考えられる蓋で、古代ⅣⅡ新期に想定される末2号窯尾根部出土品に類例がある。121は「-」、123は「=」、124は「×」の線刻が内面に見える。135は底部糸切りの須恵器有台碗である。平安時代後期の製品であろうか。136～178は須恵器有台坏である。136～141は古代Ⅱ期頃が想定される。ただし138は口縁端部形態からⅣ期まで下る可能性がある。141は外底面に「=」状の線刻が見えるが、意図的なものかは不明である。142～178は古代Ⅳ期頃が想定される。144は「=」、147・163・171・175は「-」、152は輪花状の線刻が外底面に見られるが、164の外底面に見える「=」状の線刻は意図的なものかは不明である。150は口縁に「=」状の線刻が見える。167は内外面全体に灯明痕が見える。169の図で表現している小さな打ち欠き痕は意図的なものかは不明である。179～238は須恵器無台坏である。古代Ⅱ～Ⅴ期の製品があり、Ⅲ～Ⅳ期が定量を占める。192は「+」状、220・221は「+」、223は「-」状、224・225・229は「-」の線刻が外底面に見える。218・219・224・226に灯明痕が認められ、218・224は口縁端部に帯状に灯明痕が付着しているのに対して、219は口縁端部の小さな割れ目にのみ付着している。228・229は漆膜が付着している。229は現状で部分的な付着に留まるが、口縁部内面の底部境から1/3程上方にかけてヨグレが見られることから、当初はこのヨグレの高さまで漆溶液が入れられていたものと推

測できる。239～243は須恵器無台盤であり、末窯産古代Ⅳ～Ⅴ期のものである。244～246は内外面赤彩を施す土師器碗である。244は丁寧にミガキ調整を施した精美なものである。247・248はそれぞれ柱状高台状、柱状高台の土師器碗と考えられ、249～251は内面黒色処理を施した土師器有台碗である。平安時代後半の製品であろう。252～262は煮炊具である土師器甕・鍋である。252は内面下半にヨゴレが付着している。253は外面底部付近に煤が、内底部にはコゲ、内面全体にヨゴレが付着している。254は外面と口縁端部内面に煤が付着している。255は内底面にコゲが付着している。262は外面に煤が、内面には部分的にヨゴレが付着している。263は須恵器高坏脚部で、裾端部の破断箇所は打ち欠きによって整形している。264は須恵器鉄鉢である。265～276は貯蔵具である須恵器壺・甕・甕である。265は長頸瓶の口縁部から肩部であるが、頸部の接合痕はクロロによる胴部成形時に頸部の穴に該当する箇所を別の粘土で塞いだ上で胴部の形を整え、口縁部分を取り付ける際に塞いだ粘土部分を穿孔したことを示す痕跡である。

277はてづくね土師器小皿に手捏の台を付けて、高坏形態に仕上げたものである。小皿の形態から13世紀代のもと考えられる。278～280はてづくね土師器皿で、12世紀後葉から13世紀代のものである。281～283は大宰府分類(太宰府市教育委員会2000)青磁碗のⅠ類である。284は同分類白磁皿Ⅵ1b類であろうか。285は古瀬戸瓶類の口縁部であり、中期の製品であろうか。286～290は珠洲焼で珠洲焼編年Ⅰ・Ⅱ期が想定される。

SD244(第21～28図) 291～438の弥生時代から平安時代初頭頃の遺物が出土している。293を除く291～338は古墳時代の壺・甕である。291は壺の口縁部から頸部付近で、頸部付近の破断箇所は全周打ち欠いて整った円形に整形している。302は口縁部外面の強い指頭圧痕により、厚みの凹凸が大きくなっている。303～305は山陰系の甕である。320～323は布留甕である。324は小型の甕で、外面には全体的に強く煤が付着しており、内面底部付近はコゲが、胴部中位から上位にかけてはヨゴレが付着している。325は球形の体部をもつ甕で、外面には全体的に煤が強く付着しており、内面底部付近にはコゲが、胴部中位から口縁部にかけてはヨゴレが付着している。330は長胴気味の胴部をもつ甕で、外面全体に煤が付着しているが、口縁部から頸部にかけてはより強く付着している。内面には薄くヨゴレが付着する程度である。332は中型の甕で、外面全体に強く煤が付着し、内面は底部付近にヨゴレが付着している。335は長胴気味の胴部を持つ甕で、外面には強く煤が付着し、内面の口縁部から頸部と胴部下半にはヨゴレが、胴部上位中位位にはパッチ状のコゲが付着している。339は広口であり、甕と想定している。349～354は移動式甕の部位と考えられ、全体的にハケ目調整を施している。349は甕の掛け口と考えられる。350は焚口上部の底部分と考えられ、内面には煤が付着している。351は正面から見て焚口右側の部位と考えられる。352～354は接地区が残っており、353は正面から見て左側の底接地区付近と考えられる。355・356は鉢で、355は底部に穿孔が見られる。357～361は小型丸底甕で、357は手捏形の小型壺である。362は内外面赤彩する小型の鉢である。367～372は高坏であり、367を除いて古墳時代のものである。371は柱状の脚部をもつもので、脚部外面と坏部内面を赤彩するが、坏部外面については破損のため不明である。373～395は古墳時代中・後期の土師器碗であり、383～395内面黒色処理を施しており、383～386は台付碗である。386は碗部見込みに十字の線刻が見える。396～409は古墳時代中・後期の須恵器坏蓋である。396・398・399は古墳TK47、397はTK23～47、400～402はMT15、403～406はTK10、407・408はTK43、409はTK43～209型式が概ね想定される。410～424は上記の蓋に対応する坏身である。410・412は古墳TK23～47、411・414・416はTK47、413・415・417・418はTK10、419～422はTK43型式が想定される。425～428は古墳時代中・後期の高坏である。425は台形、426は三角形、427は小さな方形の透かしが脚部に見られる。429は非常

に緻密な胎土の層と考えられるものであり、底部にはタタキ目が見える。

430～437は奈良時代から平安時代初頭頃の製品である。430は須恵器蓋で、古代Ⅲ～Ⅳ1期頃が想定される。431・432は須恵器有台坏で、431はⅡ～Ⅲ期、432はⅣ1期が想定される。431の内底面には墨痕が広く認められるため、転用碗の可能性が。432は内底面に漆膜が付着している。433～435は須恵器無台坏で、古代Ⅳ期が想定される。434は内底面に漆塗膜が付着しており、432と共に漆容器として使用されていたものであろう。436・437は内外面赤彩を施す土師器碗であり、436は内外面にミガキ調整を丁寧に施している。437は内底面にミガキ調整と連弧状の暗文を施しており丁寧な造りである。また、破断箇所を打ち欠いて研磨しているような痕跡があり、円盤状に加工している可能性がある。

438は口縁部に強い1段ナデを施し、内面はミガキ調整を施す器台状の土師器である。底部穿孔径は9～10mmで、胎土は比較的精良だが、やや大きめの砂粒と若干の小礫が混ざる。外底部には接着面で径3cm程の脚部がついていたことが破断痕跡から推定できる。形態的には鎌倉時代頃の土師器小皿に類似するが、器壁の厚さや胎土、内面の調整が異なっており、古墳時代の器台の可能性を考えておきたい。

SD240・244(第29図) SD240と244の合流点付近で出土した遺物で、439～444が出土している。439～444は古墳時代中・後期の須恵器坏蓋および坏身である。439・440・444は古墳TK10、441～443はTK43型式が想定される。

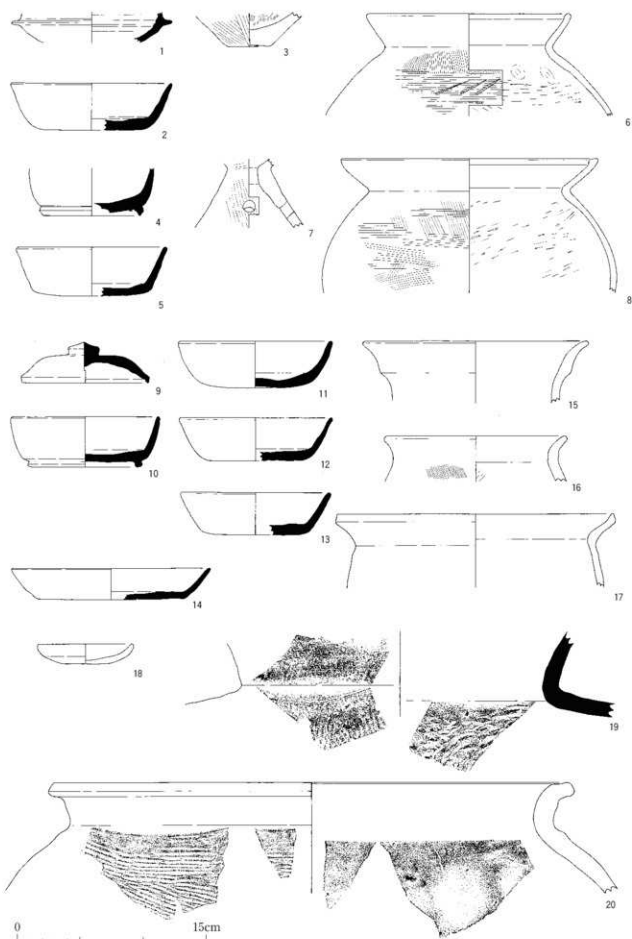
第5節 遺構外

遺構外(第29図) 445～453が出土している。445は古墳時代後期の須恵器坏身で古墳MT15型式が想定される。

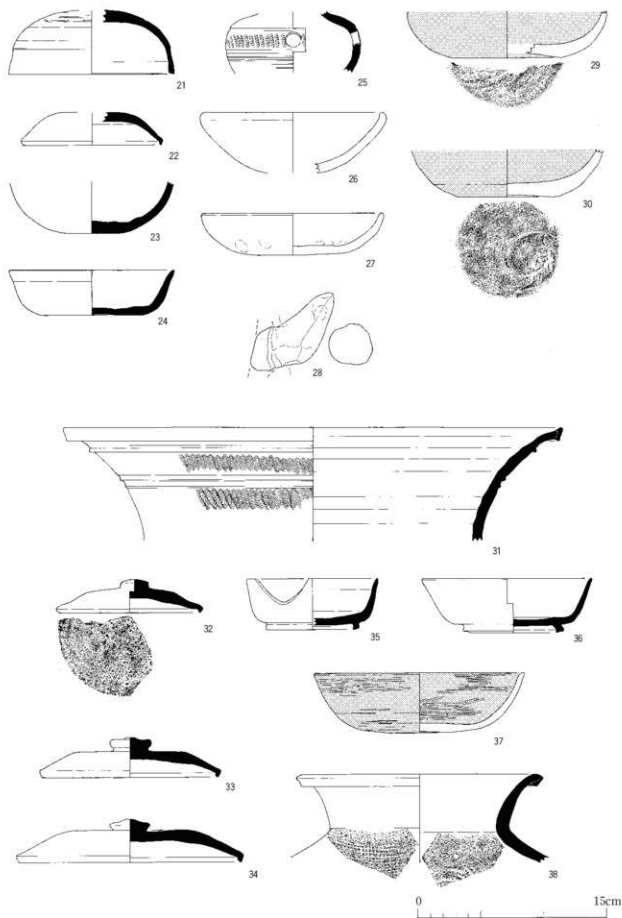
446～449は平安時代初頭前後の須恵器有台坏と無台坏であり、古代Ⅳ期が想定される。448と449の外底面には袋文字「人」の墨書が見られる。450・451は龍泉窯系青磁碗であり、450は大宰府分類Ⅱb類である。452・453は奈良・平安時代の須恵器貯蔵具である壺と甕である。

【参考文献】

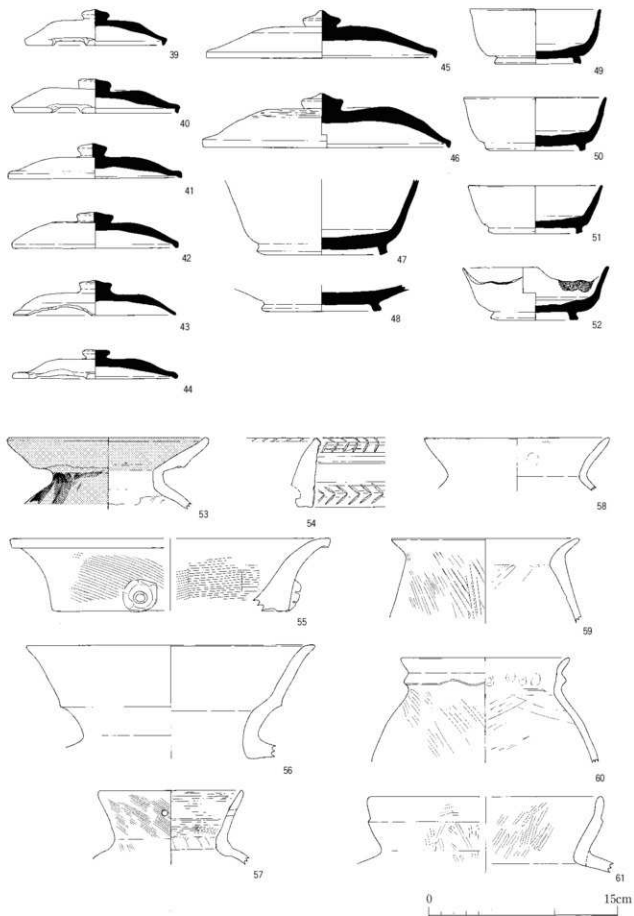
- 折戸靖幸・川畑誠 1994「高松・押水窯跡群における8世紀中葉の画期」『北陸古代土器研究』第4号
田嶋明人 1988「古代土器編年軸の設定」『北陸古代土器研究の現状と課題』北陸古代土器研究会
田辺昭三 1981『須恵器大成』
藤澤良祐 2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院
望月精司 1994「南加賀古窯跡群における8世紀中葉の画期」『北陸古代土器研究』第4号
吉岡康暢 1994『中世須恵器の研究』吉川弘文館
石川県立埋蔵文化財センター 1994「正友ヤチヤマ窯跡」
石川県教育委員会 2006『金沢市畠田西遺跡群Ⅳ』
石川県教育委員会 2006『金沢市畠田西遺跡群Ⅴ』
金沢市教育委員会 1989『金沢市末古窯跡群』
小松市教育委員会 1990『二ツ梨東山古窯跡・矢田野向山古窯跡』
太宰府市教育委員会 2000『大宰府条坊跡XⅤ－陶磁器分類編－』



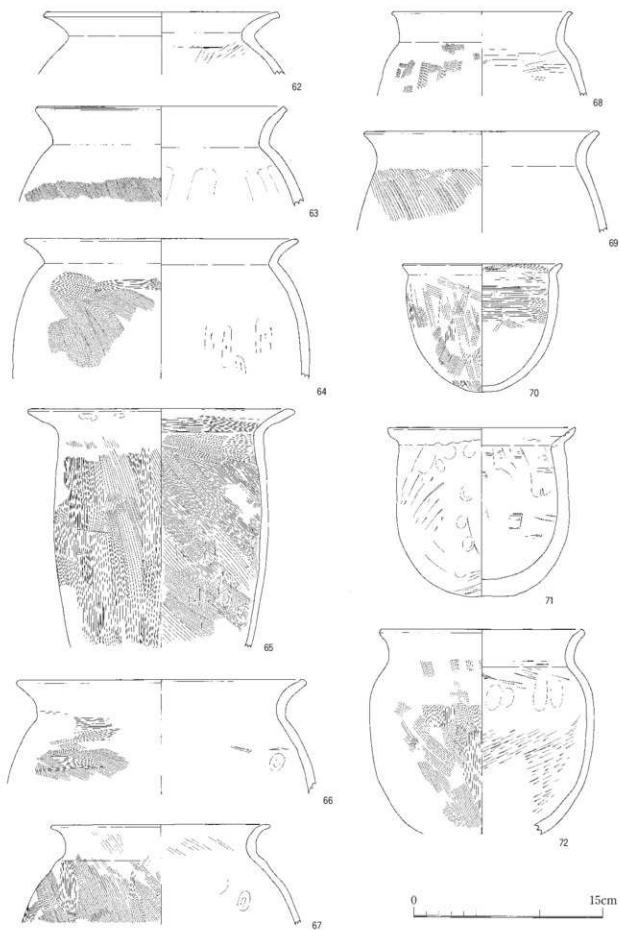
第6図 SB508 (1)・ビット (2~8)・SK203 (9)・SK208 (10~17)・SE251 (18)・SE252 (19・20)
出土土器・陶磁器 [S=1/3]



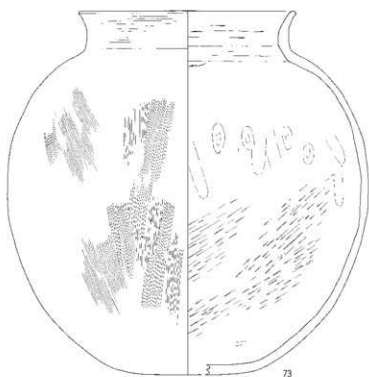
第7図 SD222 (21~30)、SD222・SD303 (31~38) 出土土器・陶磁器 [S=1/3]



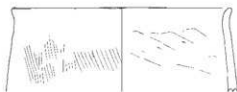
第 8 図 SD303 (39~52) 出土土器・陶磁器・SD240 (53~61) 出土土器・陶磁器 (1) [S=1/3]



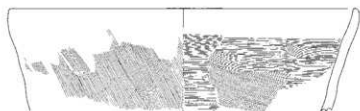
第9図 SD240出土土器・陶磁器(2) [S=1/3]



73



74



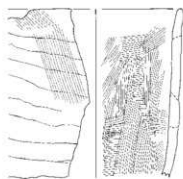
75



76



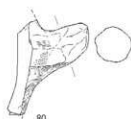
77



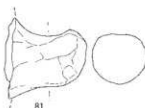
78



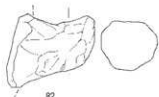
79



80



81



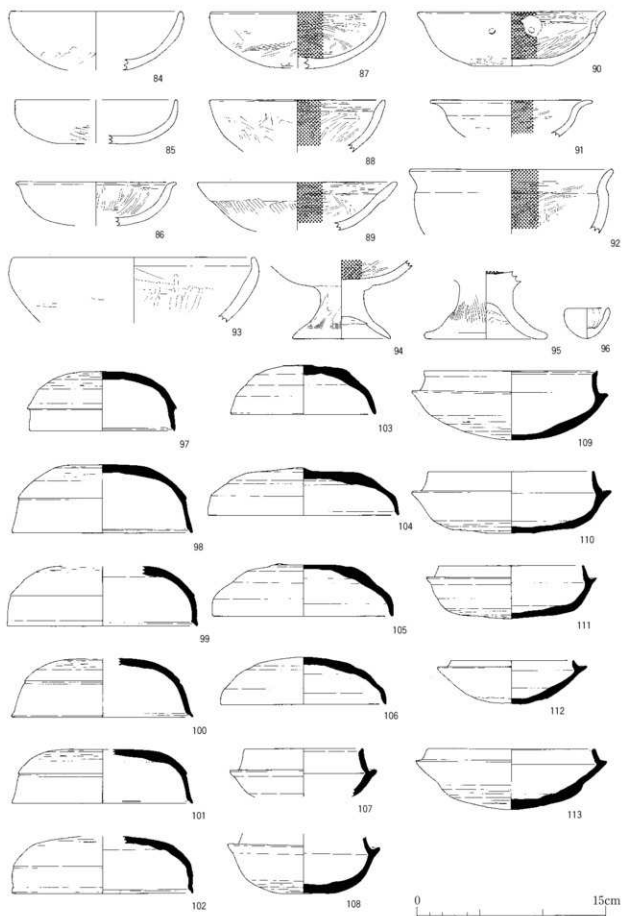
82



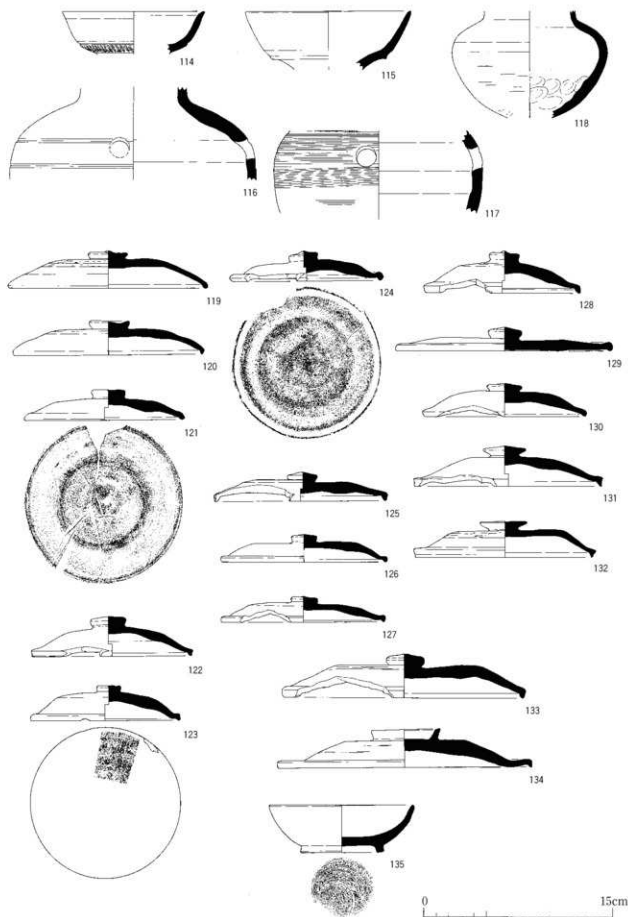
83

0 15cm

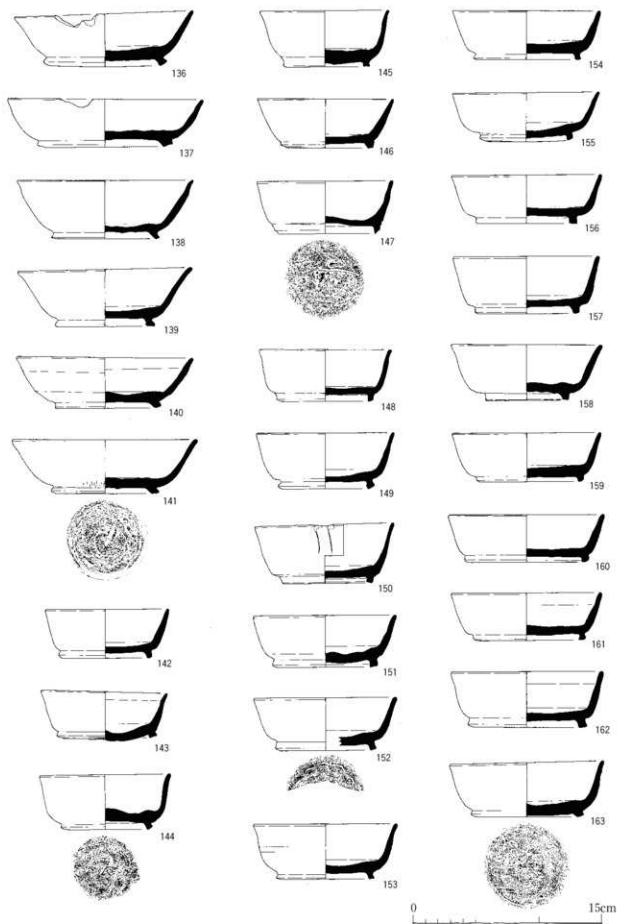
第10图 SD240出土土器・陶磁器 (3) [S=1/3]



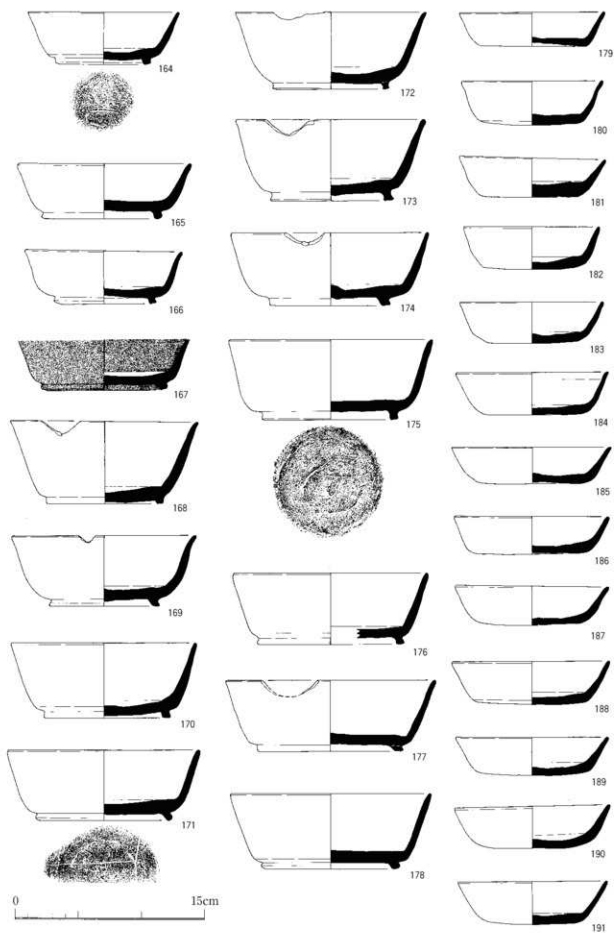
第11图 SD240出土土器・陶磁器(4) [S=1/3]



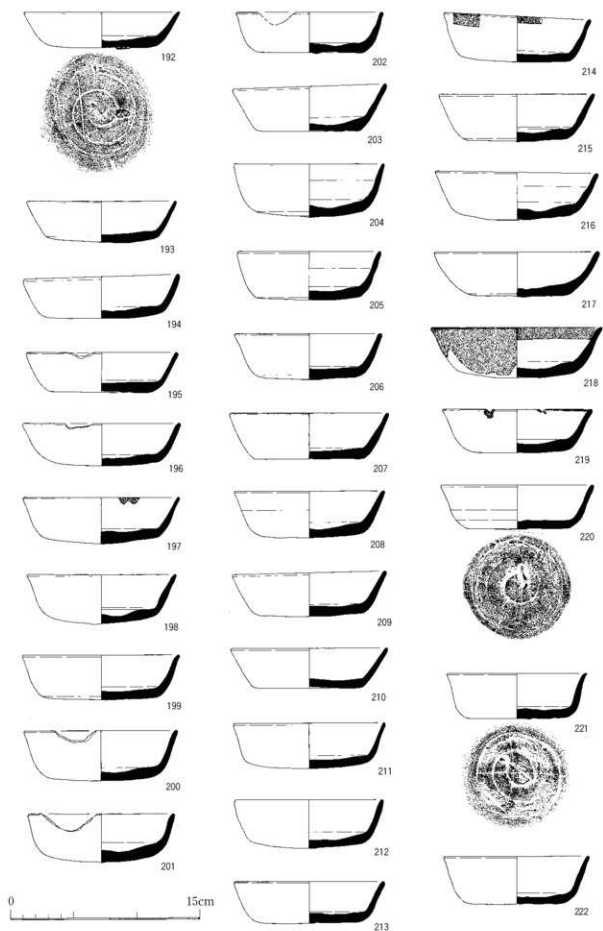
第12図 SD240出土土器・陶磁器 (5) [S=1/3]



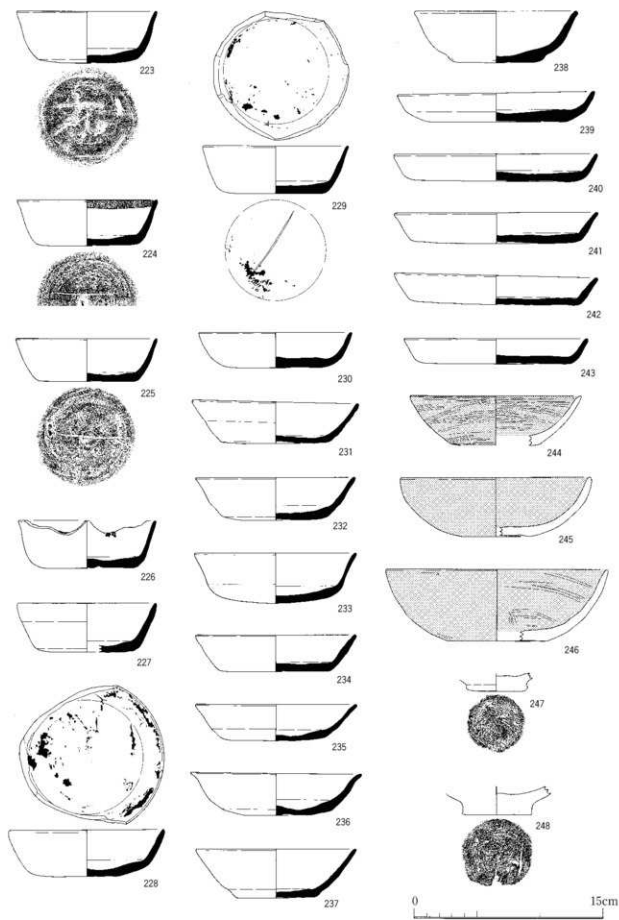
第13图 SD240出土土器・陶磁器 (6) [S=1/3]



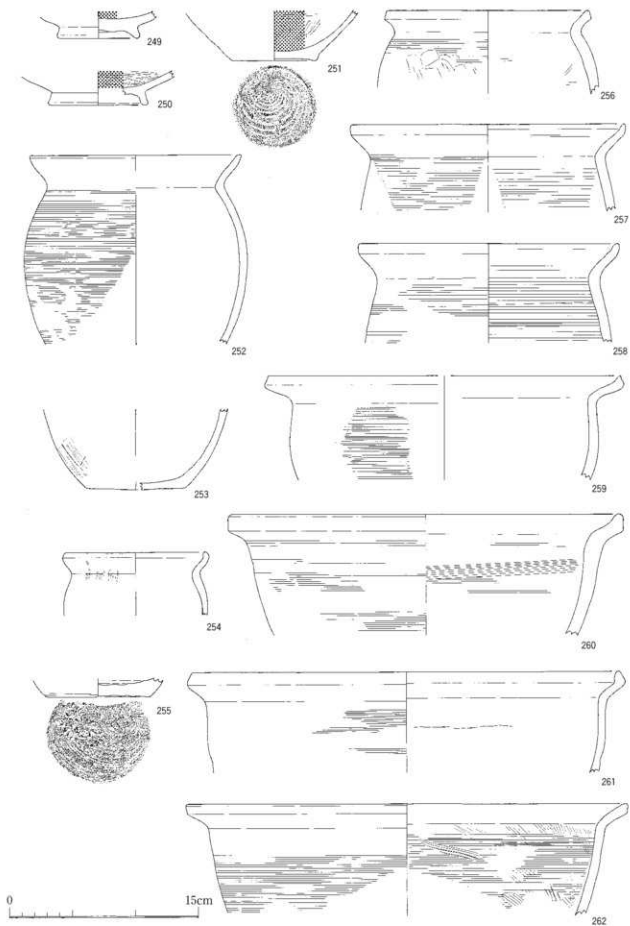
第14图 SD240出土土器・陶磁器(7) [S=1/3]



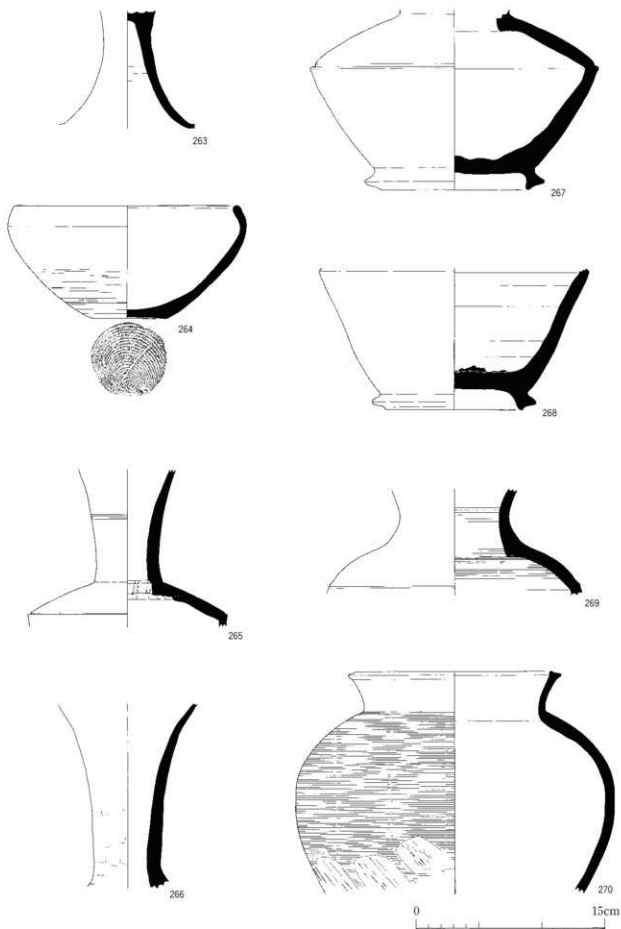
第15図 SD240出土土器・陶磁器 (8) [S=1/3]



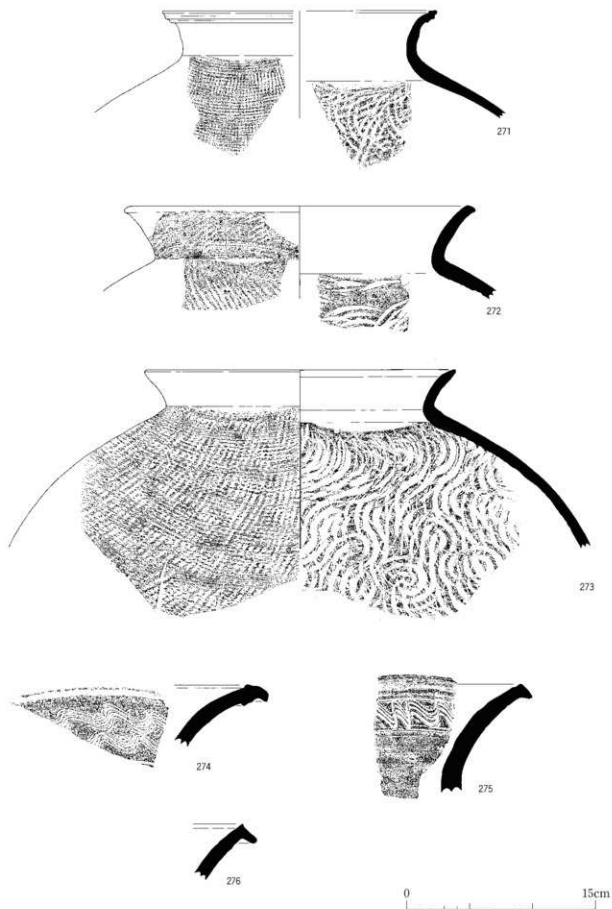
第16图 SD240出土土器・陶磁器 (9) [S=1/3]



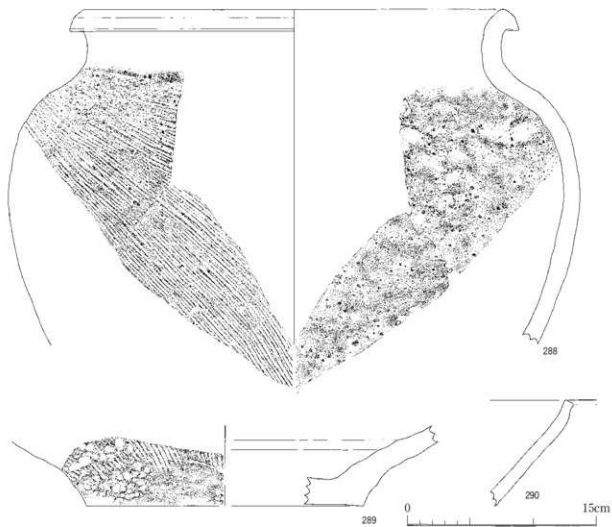
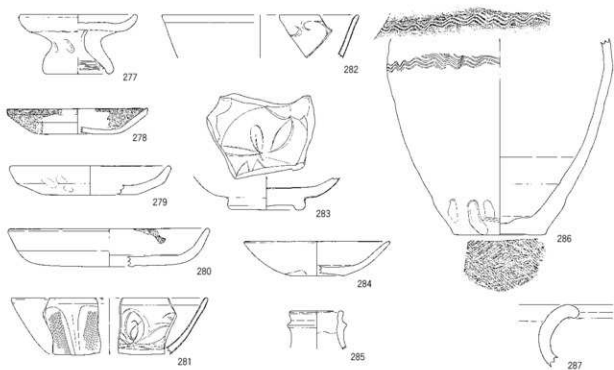
第17図 SD240出土土器・陶磁器 (10) [S=1/3]



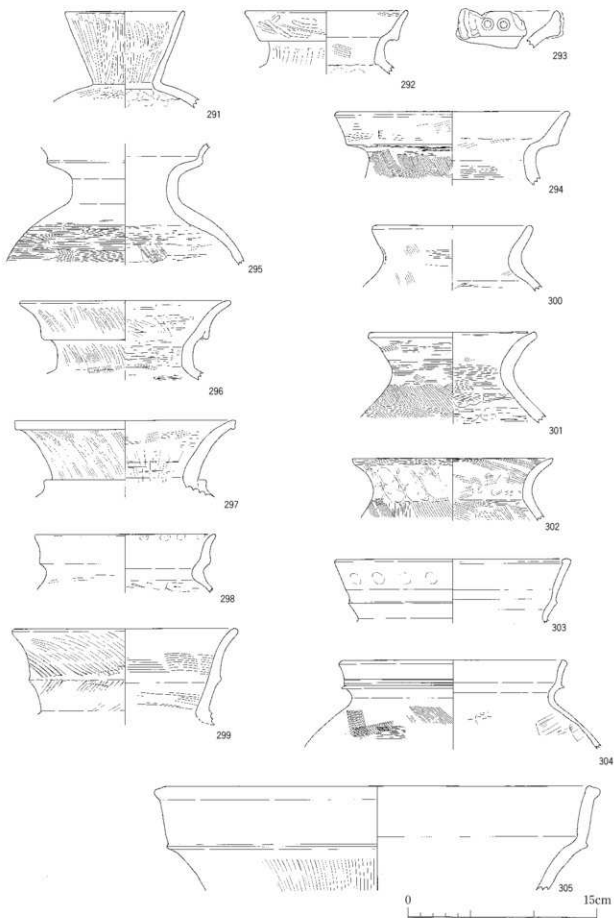
第18図 SD240出土土器・陶磁器 (11) [S= 1 / 3]



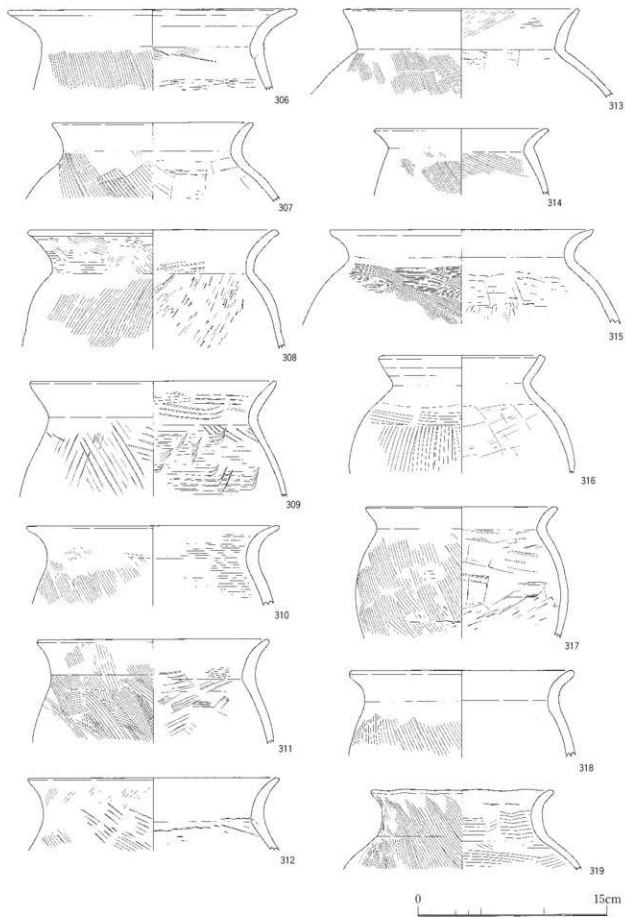
第19図 SD240出土土器・陶磁器 (12) [S=1/3]



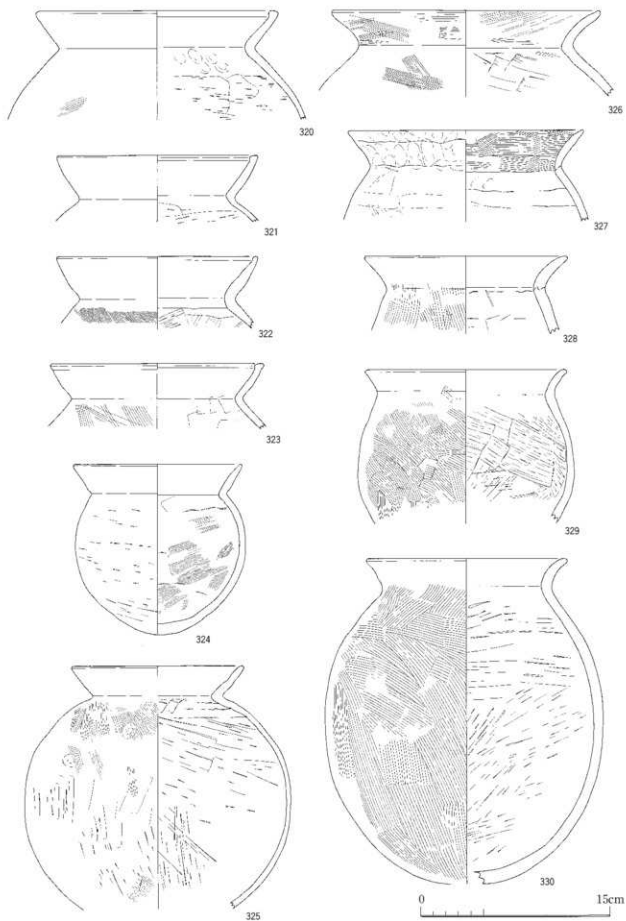
第20図 SD240出土土器・陶磁器 (13) [S= 1 / 3]



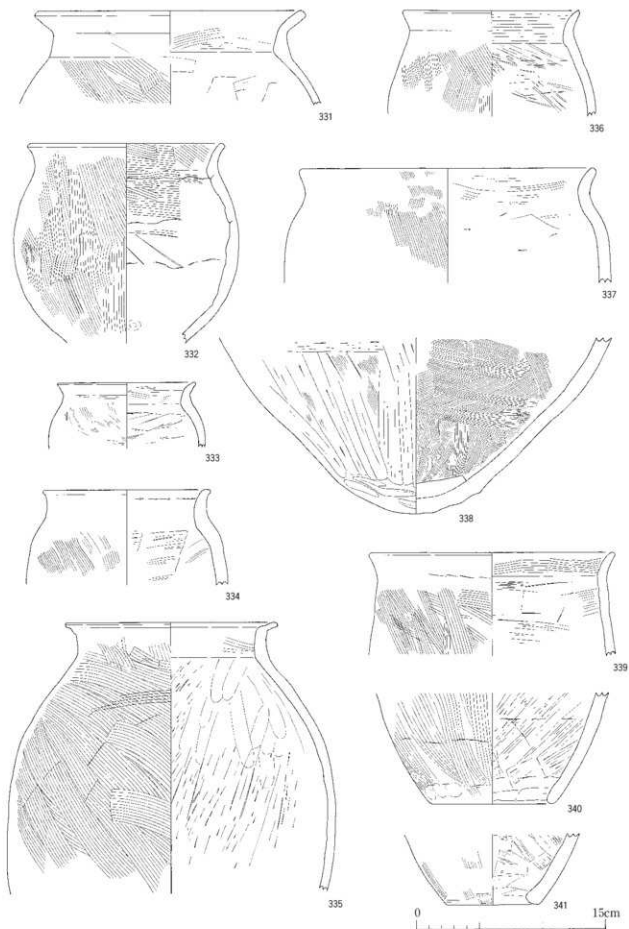
第21図 SD244出土土器・陶磁器 (1) [S=1/3]



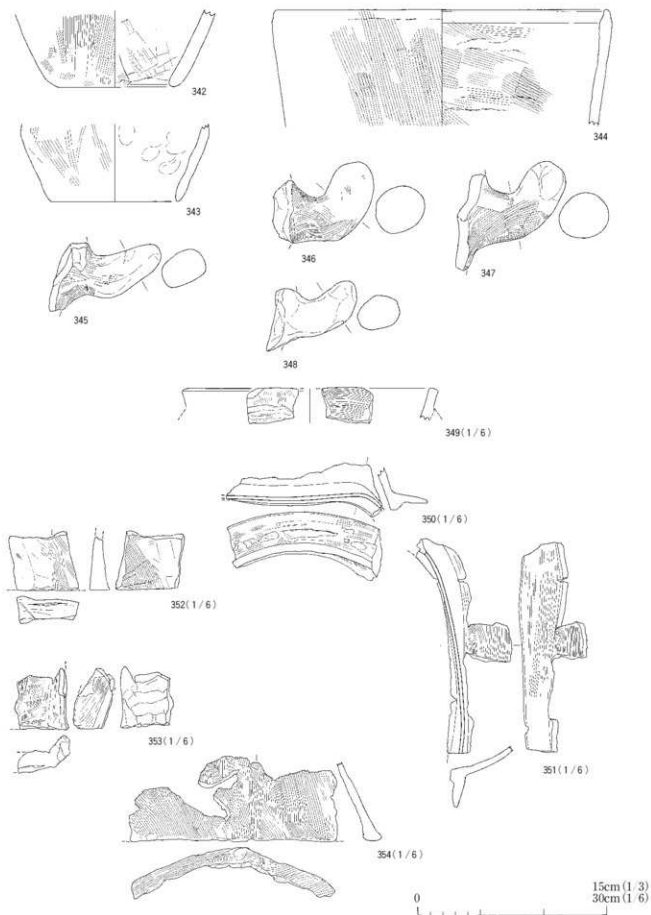
第22图 SD244出土土器・陶磁器(2) [S=1/3]



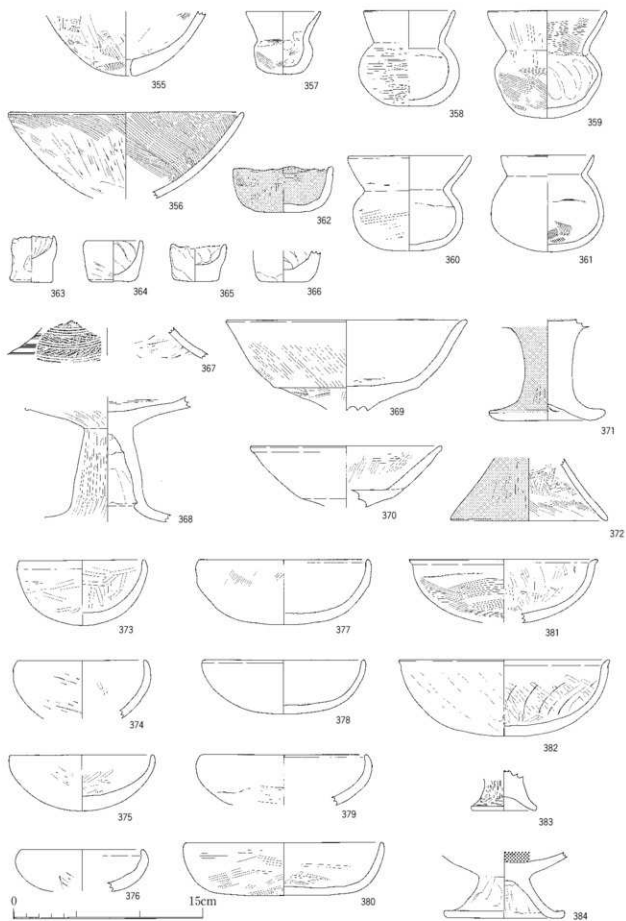
第23図 SD244出土土器・陶磁器 (3) [S=1/3]



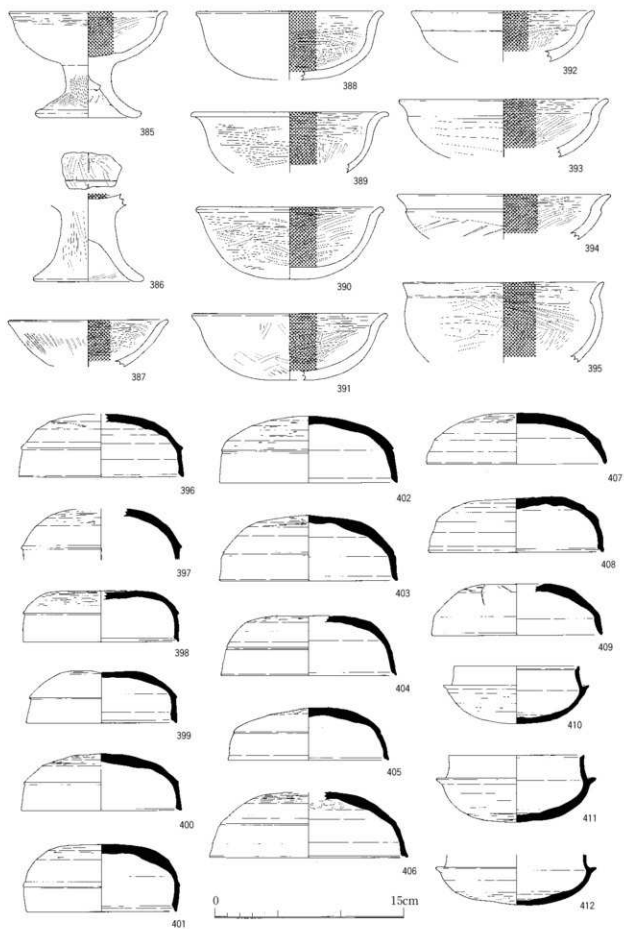
第24図 SD244出土土器・陶磁器 (4) [S=1/3]



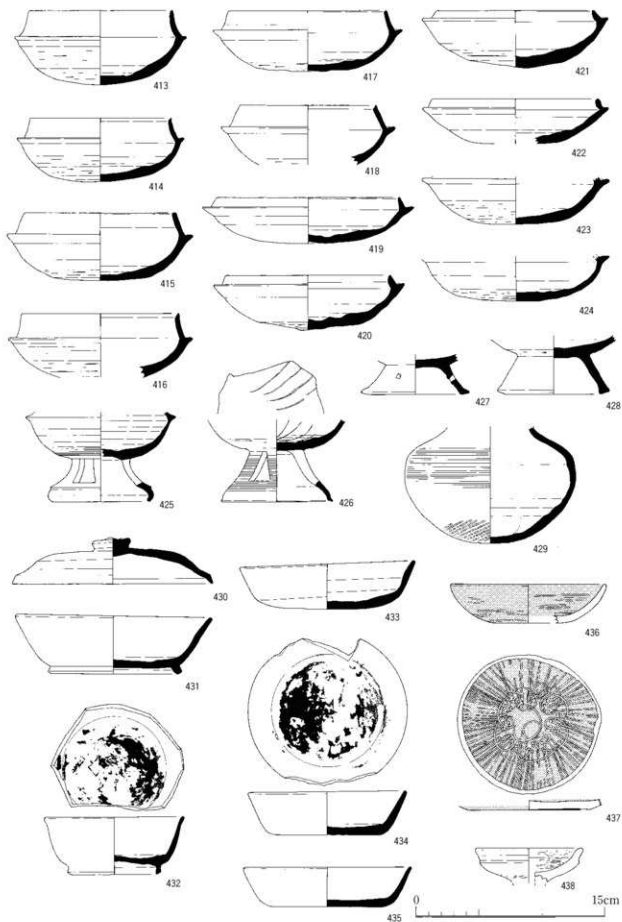
第25図 SD244出土土器・陶磁器 (5) [S=1/3・6]



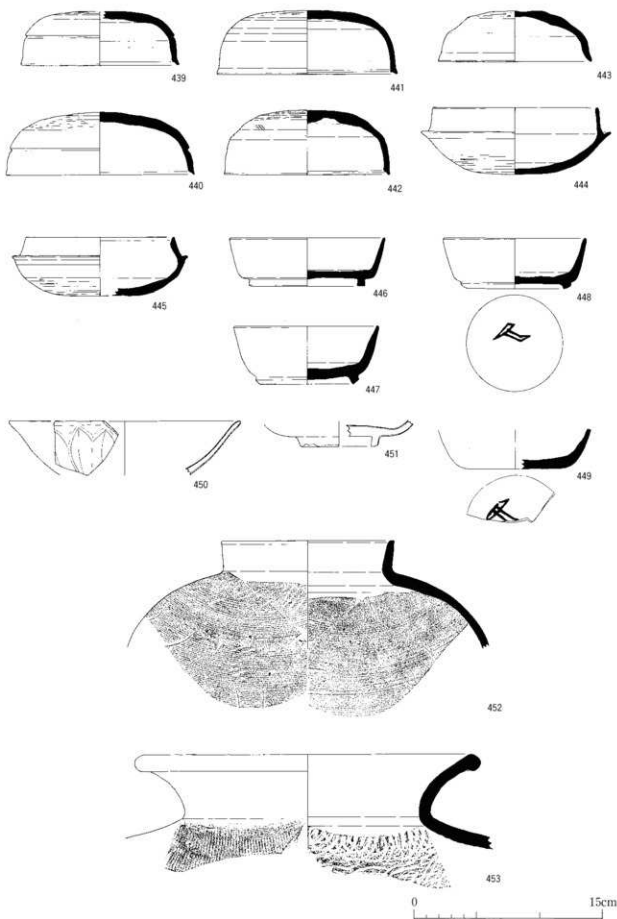
第26图 SD244出土土器・陶磁器 (6) [S=1/3]



第27図 SD244出土土器・陶磁器 (7) [S=1/3]



第28図 SD244出土土器・陶磁器 (8) [S=1/3]



第29図 SD240・244 (439~444)、遺構外 (445~453) 出土土器・陶磁器 [S=1/3]

第2表 土器・陶磁器観察表(1)

番号	通称	器種	寸法				透け 1/2	胎土			口				底				色調		産地	備	考	実測 番号
			口径 長	底径 長	口厚 厚	底厚 厚		口縁 外	口縁 内	口縁 外	口縁 内	口縁 外	口縁 内	口縁 外	口縁 内	口縁 外	口縁 内	口縁 外	口縁 内	口縁 外				
1	25K SD508	通器底面 有台	(24)				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	P4			TM140
2	25K P15	通器底面 有台	126	37		86	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				TM139
3	25K P17	通器底面 有台	(36)			34	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				TM141
4	25K P19	通器底面 有台	(38)			77	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				TM138
5	25K P19	通器底面 有台	117	39		92	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				TM137
6	25K P22	通器底面 有台	158	(81)		134	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				TM143
7	25K P25	通器底面 有台	(54)				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				TM142
8	25K P25	通器底面 有台	204	(107)	234	160	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				TM144
9	25K SK208	通器底面 有台	100	32		75	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				TM224
10	25K SK208	通器底面 有台	116	40		90	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				TM222
11	25K SK208	通器底面 有台	120	37		80	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				TM221
12	25K SK208	通器底面 有台	120	34		76	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				TM219
13	25K SK208	通器底面 有台	116	34		74	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				TM220
14	25K SK208	通器底面 有台	156	25		118	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				TM223
15	25K SK208	通器底面 有台	176	(49)		134	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				TM225
16	25K SK208	通器底面 有台	142	(36)		131	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				TM226
17	25K SK208	通器底面 有台	218	(58)		190	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				TM227
18	25K SE251	通器底面 有台	74	16		35	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				FJ46
19	25K SE252	通器底面 有台					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				FJ47
20	25K Y12 SE252	通器底面 有台	418	(88)		366	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				E163
21	25K AB5 SD222	通器底面 有台	132	(51)		104	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				E54
22	15K AA6 SD222	通器底面 有台	110	26		52	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				SD303, 外面磨損
23	25K AA6 SD222	通器底面 有台	(42)			65	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				CH-69
24	15K AA6 SD222	通器底面 有台	130	36		80	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				CH-68
25	25K AB5 SD222	通器底面 有台	(48)	108			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				TM220
26	25K AB5 SD222	通器底面 有台	142	(48)		102	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				EE70
27	25K AA6 SD222	通器底面 有台	142	33		84	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				SD222
28	25K SD222	通器底面 有台	142	33		84	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				EE76
29	15K AA6 SD222	通器底面 有台	(37)			88	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				EE74
30	15K AA6 SD222	通器底面 有台	(38)			80	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				EE73
31	15K AB5 SD222	通器底面 有台	396	(90)			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				TM262
32	15K AA6 SD222	通器底面 有台	112	27		72	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				SD303, 内面にへら 記号
33	15K AA6 SD222	通器底面 有台	140	32		70	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				SD303
34	15K AA6 SD222	通器底面 有台	176	35		72	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				SD303
35	15K AA6 SD222	通器底面 有台	104	41		74	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				SD303, 打文
36	15K AA6 SD222	通器底面 有台	134	43		80	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				SD303
37	15K AA6 SD222	通器底面 有台	166	48		114	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				SD303
38	15K AA6 SD222	通器底面 有台	186	71		142	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				SD303
39	25K SD303	通器底面 有台	114	29		72	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				E182
40	25K SD303	通器底面 有台	130	27		75	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				E191
41	25K AA9 SD303	通器底面 有台	138	28		74	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				E173
42	25K SD303	通器底面 有台	130	29		79	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				E168
43	25K SD303	通器底面 有台	128	28		76	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				E175
44	25K SD303	通器底面 有台	129	23		72	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				E171
45	25K SD303	通器底面 有台	184	38		130	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				E184
46	25K Y17 SD303	通器底面 有台	186	43		130	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				E185
47	25K Y18 SD303	通器底面 有台	(60)	104			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				E170
48	25K SD303	通器底面 有台	(21)	95			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				TM203
49	25K SD303	通器底面 有台	103	44		69	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				TM202
50	25K SD303	通器底面 有台	111	43		79	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				TM207
51	25K Y17 SD303	通器底面 有台	106	36		74	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				TM206

第2表 土器・陶磁器觀察表(2)

番号	通称	器種	口径長	底面幅	胴径厚	強度受注	適合寸法	軸土	壁	壁	魚目	産地	備	考	実測番号	
							寸法	寸法	寸法	寸法	寸法					
52	205 SD17	通称 土師器	114	43	70			口縁外周 口縁内周	口縁外周 口縁内周	口縁外周 口縁内周	口縁外周 口縁内周	底面外周 底面内周	灰 灰	濃灰	No.17, 底面外周に 磨面、口径外 周に赤灰	TM212
53	205 SD40	土師器	158 (57)				口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰		S62
54	205 SD40	土師器					口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰		OH47
55	205 SD40	土師器					口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰		OH46
56	205 SD40	土師器	227 (90)				口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰		OH44
57	205 SD40	土師器	114 (59)				口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰	孔10mm	OH45
58	205 SD40	土師器	146 (42)				口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰	内外面に黒灰	S63
59	205 SD40	土師器	148 (67)				口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰	外面に付着	S64
60	205 SD40	土師器	132 (64)				口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰		OH61
61	205 SD40	土師器	188 (50)				口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰	口縁に付着	S65
62	205 SD40	土師器	188 (50)				口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰		S66
63	205 SD40	土師器	195 (79)				口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰	上層	OH61
64	205 SD40	土師器	214 (111)				口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰	外面に付着	OH62
65	205 SD40	土師器	206 190 172	163	163	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰	内外面口縁に付着	S67
66	205 SD40	土師器	226 (91)				口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰	外面に付着	S68
67	205 SD40	土師器	172 (80)				口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰	外面に付着	S69
68	205 SD40	土師器	142 (67)				口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰	外面に付着	S70
69	205 SD40	土師器	184 (81)				口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰	内外面、内面一部に 黒灰に付着	S71
70	205 SD40	土師器	126 102 122 25	118	118	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰	内外面、内面一部に 黒灰に付着	S72
71	205 SD40	土師器	148 135 140	132	132	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰	内外面、内面一部に 黒灰に付着	S73
72	205 SD40	土師器	160 164 180	148	148	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰	内外面、内面一部に 黒灰に付着	S74
73	205 SD40	土師器	168 230 288 100	163	163	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰	外面に付着	TM216
74	205 SD40	土師器	173 (66)				口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰	鉄分付着	OH49
75	205 SD40	土師器	273 (83)				口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰	上層	FJ41
76	205 SD40	土師器	112		90		口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰		OH50
77	205 SD40	土師器	176 (76)	140			口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰		F7
78	205 SD40	土師器					口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰	外面に付着	OH53
79	205 SD40	土師器	63 41 31	41 31	31		口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰		FJ45
80	205 SD40	土師器	46 29 29	29 29	29		口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰		FJ42
81	205 SD40	土師器	64 43 40	43 40	40		口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰	鉄分付着	FJ44
82	205 SD40	土師器	63 41 31	41 31	31		口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰		FJ43
83	205 SD40	土師器	136 (46)				口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰		F6
84	205 SD40	土師器	125 35	58	58		口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰		FJ39
85	205 SD40	土師器	137 45	40	40		口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰		FJ40
86	205 SD40	土師器	136 (42)				口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰		FJ38
87	205 SD40	土師器	156 38				口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰	外面口縁黒灰	FJ32
88	205 SD40	土師器	149 43	65	65		口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰	外面口縁黒灰	FJ30
89	205 SD40	土師器	126 130				口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰	外面口縁黒灰	FJ31
90	205 SD40	土師器	160 (52)				口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰	外面口縁黒灰	FJ34
91	205 SD40	土師器	192 (52)				口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰	口縁内外面に付着	S64
92	205 SD40	土師器	153 (78)				口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰		FJ35
93	205 SD40	土師器	34 24	5	5		口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰		E246
94	205 SD40	土師器	136 47				口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰		S150
95	205 SD40	土師器	142 55				口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰		S134
96	205 SD40	土師器	150 (48)				口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰		S137
97	205 SD40	土師器	142 (57)				口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰		S138
98	205 SD40	土師器	144 43				口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰		S133
99	205 SD40	土師器	142 (46)				口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	口 以下	濃灰 濃灰	濃灰	外面面に定着	S135

第2表 土器・陶磁器観察表(3)

番号	通称	図様	口径長	底径	底厚	底径厚	底径受	適合 寸法	胎土			器			色調			産地	備	考	実測 番号	
									好	奇	赤	口縁外面	胴外面	口縁内面	胴内面	底部外面	外面					内面
103	205 SD240	通称無蓋	114	39				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外			S131	
104	205 SD240	通称無蓋	152	38				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	外面自然釉		S130	
105	205 SD240	通称無蓋	142	42				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	外面自然釉		S132	
106	205 SD240	通称無蓋	124	38				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外			S135	
107	205 SD240	通称無蓋	94 (30)					△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外			S147	
108	205 SD240	通称無蓋	(47)					△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外			S149	
109	205 SD240	通称無蓋	136	55				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	黒色焼		S141	
110	205 SD240	通称無蓋	132	49				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外			S142	
111	205 SD240	通称無蓋	115	42				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外			S143	
112	205 SD240	通称無蓋	98	35				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	黒色焼		S144	
113	205 SD240	通称無蓋	132	49				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外			S148	
114	205 SD240	通称無蓋	112 (34)					△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	通称外 Y14W と 混合		S140	
115	205 SD240	通称無蓋	132 (46)					△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外			S139	
116	205 SD240	通称無蓋	(73) 197					△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外			CH04	
117	205 SD240	通称無蓋	(60) 167					△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外			CH05	
118	205 SD240	通称無蓋	(85) 124					△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外			CH04	
119	205 SD240	通称無蓋	158	30				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	黒色焼	輪文	末	E170
120	205 SD240	通称無蓋	150	27				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	内面黒色		E180	
121	205 SD240	通称無蓋	128	24				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	内面黒色		E177	
122	205 SD240	通称無蓋	126	22				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	打文、内面黒色		E183	
123	205 SD240	通称無蓋	119	28				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	打文、内面へう記 号		E178	
124	205 SD240	通称無蓋	123	24				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	打文、内面へう記 号		E179	
125	205 SD240	通称無蓋	136	28				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	打文		E181	
126	205 SD240	通称無蓋	130	22				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	打文		E172	
127	205 SD240	通称無蓋	138	21				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	2区 SD303 と 混合		E190	
128	205 SD240	通称無蓋	122	34				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	2区 AA9SD303、 SD303と混合		E189	
129	205 SD240	通称無蓋	170	19				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	内面付蓋物		E188	
130	205 SD240	通称無蓋	126	27				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	打文		E174	
131	205 SD240	通称無蓋	150	27				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	打文		E187	
132	205 SD240	通称無蓋	140	29				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	2区 SD244 と混合		E181	
133	205 SD240	通称無蓋	190	35				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	2区 SK208 と 混合		E186	
134	205 SD240	通称無蓋	204	31				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	2区 AA9SD303、 SD303と混合		E176	
135	205 SD240	通称無蓋	114	38				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	No.16、外面黒色焼		S76	
136	205 SD240	通称無蓋	141	41				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	打文		FJ80	
137	205 SD240	通称無蓋	154	38				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	打文		FJ77	
138	205 SD240	通称無蓋	138	47				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	黒色焼		FJ83	
139	205 SD240	通称無蓋	136	47				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	打文		TM176	
140	205 SD240	通称無蓋	139	42				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	底部外面へう記 号		TM174	
141	205 SD240	通称無蓋	146	43				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	底部外面へう記 号		TM175	
142	205 SD240	通称無蓋	98	39				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外			S80	
143	205 SD240	通称無蓋	99	39				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外			FJ76	
144	205 SD240	通称無蓋	103	44				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	底部外面へう記 号		TM169	
145	205 SD240	通称無蓋	100	45				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外			S78	
146	205 SD240	通称無蓋	116	39				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外			S75	
147	205 SD240	通称無蓋	107	42				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	底部外面へう記 号		TM170	
148	205 SD240	通称無蓋	102	42				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外			TM173	
149	205 SD240	通称無蓋	108	44				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	外面黒色焼		TM146	
150	205 SD240	通称無蓋	108	48				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁部にへう記 号		TM147	
151	205 SD240	通称無蓋	112	41				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	外面黒色焼		TM171	
152	205 SD240	通称無蓋	112	42				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	底部外面へう記 号		TM168	
153	205 SD240	通称無蓋	112	44				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外			TM153	
154	205 SD240	通称無蓋	117	39				△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	2ヶ所打文		S79	

第2表 土器・陶磁器観察表(4)

番号	通称	器種	流量				胎土	器				色				備考	家訓番号
			口径	底径	胴径	底厚		口径外面	口径内面	胴外面	胴内面	底外面	外面	内面	底面		
155	255 S0240	通器底面有台坪	117	40	75		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		TM149
156	255 S0240	通器底面有台坪	118	39	80		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		S81
157	255 S0240	通器底面有台坪	115	46	83		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		TM152
158	255 S0240	通器底面有台坪	118	45	66		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		TM151
159	255 S0240	通器底面有台坪	118	39	85		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		S82
160	255 S0240	通器底面有台坪	122	38	90		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		S77
161	255 S0240	通器底面有台坪	118	38	89		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		S75
162	255 S0240	通器底面有台坪	120	45	95		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		S83
163	255 S0240	通器底面有台坪	121	45	90		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		TM172
164	255 S0240	通器底面有台坪	118	42	76		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		TM148
165	255 S0240	通器底面有台坪	132	44	96		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		S74
166	255 S0240	通器底面有台坪	124	44	82		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		TM154
167	255 S0240	通器底面有台坪	(40)	100			底7	○	△	○	△	○	△	○	△		S84
168	255 S0240	通器底面有台坪	147	60	93		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		FJ36
169	255 S0240	通器底面有台坪	144	56	86		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		FJ45
170	255 S0240	通器底面有台坪	146	60	101		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		S75
171	255 S0240	通器底面有台坪	152	56	110		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		S71
172	255 S0240	通器底面有台坪	150	62	93		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		FJ82
173	255 S0240	通器底面有台坪	148	65	98		底12	△	△	○	△	○	△	○	△		FJ79
174	255 S0240	通器底面有台坪	154	58	95		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		FJ81
175	255 S0240	通器底面有台坪	160	64	109		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		FJ84
176	255 S0240	通器底面有台坪	154	57	118		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		S73
177	255 S0240	通器底面有台坪	165	56	116		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		FJ78
178	255 S0240	通器底面有台坪	158	60	110		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		S72
179	255 S0240	通器底面有台坪	114	28	85		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		S96
180	255 S0240	通器底面有台坪	110	35	82		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		FJ72
181	255 S0240	通器底面有台坪	115	31	80		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		FJ73
182	255 S0240	通器底面有台坪	106	34	81		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		S98
183	255 S0240	通器底面有台坪	112	33	74		底12	△	△	○	△	○	△	○	△		FJ75
184	255 S0240	通器底面有台坪	120	34	84		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		S109
185	255 S0240	通器底面有台坪	125	30	87		底12	△	△	○	△	○	△	○	△		FJ74
186	255 S0240	通器底面有台坪	122	31	94		底12	△	△	○	△	○	△	○	△		E152
187	255 S0240	通器底面有台坪	120	32	84		底10	△	△	○	△	○	△	○	△		TM187
188	255 S0240	通器底面有台坪	124	35	92		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		S98
189	255 S0240	通器底面有台坪	120	31	90		底12	△	△	○	△	○	△	○	△		TM158
190	255 S0240	通器底面有台坪	123	35	86		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		E141
191	255 S0240	通器底面有台坪	116	34	74		底12	△	△	○	△	○	△	○	△		S93
192	255 S0240	通器底面有台坪	122	28	91		底12	△	△	○	△	○	△	○	△		E142
193	255 S0240	通器底面有台坪	118	33	89		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		S94
194	255 S0240	通器底面有台坪	121	35	94		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		E148
195	255 S0240	通器底面有台坪	118	32	86		底12	△	△	○	△	○	△	○	△		FJ71
196	255 S0240	通器底面有台坪	124	34	94		底12	△	△	○	△	○	△	○	△		S105
197	255 S0240	通器底面有台坪	123	37	90		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		E149
198	255 S0240	通器底面有台坪	118	40	86		底12	△	△	○	△	○	△	○	△		TM167
199	255 S0240	通器底面有台坪	122	36	88		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		S110
200	255 S0240	通器底面有台坪	120	40	96		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		S104
201	255 S0240	通器底面有台坪	116	39	80		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		S111
202	255 S0240	通器底面有台坪	116	33	87		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		S108
203	255 S0240	通器底面有台坪	121	38	84		底12	△	△	○	△	○	△	○	△		E155
204	255 S0240	通器底面有台坪	120	42	86		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		S103
205	255 S0240	通器底面有台坪	114	39	82		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		S99
206	255 S0240	通器底面有台坪	116	37	86		底12	○	△	○	△	○	△	○	△		S96

第2表 土器・陶磁器観察表(5)

番号	通称	器種	流量				開口	胎土				焼				色顔				産地	備考	実測番号
			口径	底径	胴径	底厚		好	奇	癖	赤	口縁外面	胴外面	口縁内面	胴内面	外面	内面	外面	内面			
207	205 S0240	通器部 無台付	124	37	87		底	○	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	灰	灰	高松	普通		S107
208	205 S0240	通器部 無台付	118	37	88		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	濃灰	濃灰	高松	普通	底面外面工点	S96
209	205 S0240	通器部 無台付	121	36	86		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	濃灰	濃灰	高松	普通		E147
210	205 S0240	通器部 無台付	122	32	82		底	○	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	濃灰	濃灰	高松	205通器部V14Wと合、普通		E146
211	205 S0240	通器部 無台付	118	36	92		底	○	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	濃灰	濃灰	高松	普通		E151
212	205 S0240	通器部 無台付	116	39	90		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	濃灰白	濃灰白	高松	内外面保存、普通		E143
213	205 S0240	通器部 無台付	116	33	90		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	濃灰	濃灰	高松	普通	見込普通	E144
214	205 S0240	通器部 無台付	117	49	86		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	濃灰	濃灰	高松	普通	内外面に灯明	E154
215	205 S0240	通器部 無台付	122	38	85		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	灰	灰	高松	内外面取出物		S97
216	205 S0240	通器部 無台付	129	39	86		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	濃灰	濃灰	高松	普通		E145
217	205 S0240	通器部 無台付	130	36	82		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	濃灰	濃灰	高松	普通		S102
218	205 S0240	通器部 無台付	136	40	92		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	濃灰	濃灰	高松	内外面灯明		E150
219	205 S0240	通器部 無台付	118	35	86		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	灰白	灰白	高松	普通	内外面に灯明	S126
220	205 S0240	通器部 無台付	120	35	83		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	灰白	灰白	高松	普通	底面外面へ記号「一」、内外面保存	S95
221	205 S0240	通器部 無台付	120	36	80		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	濃灰	灰	高松	普通	底面・底面外面へ記号「一」	S106
222	205 S0240	通器部 無台付	114	38	80		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	灰白	灰	高松	普通		TM166
223	205 S0240	通器部 無台付	110	41	82		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	灰白	灰白	高松	底面外面へ記号「一」、内外面保存		S91
224	205 S0240	通器部 無台付	110	37	80		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	灰	灰	高松	普通	底面外面へ記号「一」、内外面保存	S90
225	205 S0240	通器部 無台付	112	34	78		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	灰	灰	高松	普通	底面・底面外面へ記号「一」、内外面灯明	S92
226	205 S0240	通器部 無台付	108	38	78		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	灰	灰	高松	普通	底面・底面外面へ記号「一」、内外面灯明、打込	S127
227	205 S0240	通器部 無台付	110	39	80		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	灰	灰	高松	普通		S87
228	205 S0240	通器部 無台付	122	37	96		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	濃灰	濃灰	高松	普通	底面・底面外面へ記号「一」、内外面保存	E243
229	205 S0240	通器部 無台付	114	38	76		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	濃灰	濃灰	高松	普通	底面外面へ記号「一」、内外面保存	E242
230	205 S0240	通器部 無台付	121	28	80		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	濃灰	濃灰	高松	普通		E153
231	205 S0240	通器部 無台付	130	35	87		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	灰白	灰白	高松	普通		TM164
232	205 S0240	通器部 無台付	125	34	84		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	灰	灰	高松	普通		TM163
233	205 S0240	通器部 無台付	126	40	92		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	灰白	灰白	高松	普通		S99
234	205 S0240	通器部 無台付	126	39	87		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	灰白	灰白	高松	普通		TM155
235	205 S0240	通器部 無台付	127	30	80		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	濃灰	濃灰	高松	普通		TM155
236	205 S0240	通器部 無台付	136	34	86		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	灰	灰	高松	普通	底面・底面外面へ記号「一」、内外面灯明	S100
237	205 S0240	通器部 無台付	126	39	84		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	灰白	灰白	高松	普通		S101
238	205 S0240	通器部 無台付	128	41	72		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	灰白	灰白	高松	普通	内外面取出物	S136
239	205 S0240	通器部 無台付	155	24	110		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	灰白	灰白	高松	普通		TM162
240	205 S0240	通器部 無台付	160	22	130		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	灰	灰	高松	普通	底面外面工点	TM157
241	205 S0240	通器部 無台付	160	25	136		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	灰白	灰白	高松	普通		TM160
242	205 S0240	通器部 無台付	160	24	136		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	灰白	灰白	高松	普通	205 S030 205 S0240合、普通	TM161
243	205 S0240	通器部 無台付	144	20	118		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	灰	灰	高松	普通	上層、普通	TM156
244	205 S0240	通器部 無台付	135	39	70		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	赤褐色	赤褐色	高松	普通		E235
245	205 S0240	通器部 無台付	150	47	56		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	赤褐色	赤褐色	高松	普通		E237
246	205 S0240	通器部 無台付	176	57	80		底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	赤褐色	赤褐色	高松	普通		E236
247	205 S0240	通器部 無台付	(14)				底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	濃褐色	濃褐色	高松	普通		E247
248	205 S0240	通器部 無台付	(22)				底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	濃褐色	濃褐色	高松	普通		E248
249	205 S0240	通器部 無台付	(21)				底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	濃褐色	濃褐色	高松	普通		E238
250	205 S0240	通器部 無台付	(27)				底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	濃褐色	濃褐色	高松	普通		E239
251	205 S0240	通器部 無台付	(40)				底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	濃褐色	濃褐色	高松	普通		E240
252	205 S0240	通器部 無台付	168 (150)	178			底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	濃褐色	濃褐色	高松	普通		S37
253	205 S0240	通器部 無台付	(64)				底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	濃褐色	濃褐色	高松	普通	内外面保存、底面・底面外面へ記号「一」、内外面灯明	E251
254	205 S0240	通器部 無台付	112 (150)	114			底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	濃褐色	濃褐色	高松	普通	内外面保存、底面・底面外面へ記号「一」、内外面灯明	S124
255	205 S0240	通器部 無台付	(25)				底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	濃褐色	濃褐色	高松	普通	底面・底面外面へ記号「一」、内外面灯明	E244
256	205 S0240	通器部 無台付	160 (66)				底	△	△	△	△	口縁外	口縁外	口縁外	口縁外	ヘラダリナ	濃褐色	濃褐色	高松	普通	底面・底面外面へ記号「一」、内外面灯明	S43

第2表 土器・陶磁器観察表(6)

番号	通称	器種	流量				通称	土				器				色				産地	備	考	実測番号
			口径	底径	口径	底径		口径	底径	口径	底径	口径	底径	口径	底径	口径	底径	口径	底径				
257	205 S0240	土師器	216 (69)		188	121	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰	外面付着			S38			
258	205 S0240	土師器	226 (79)		178	123	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰	外面一部付着			S39			
259	205 S0240	土師器				121	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰	2区 AA9S0222と接合			E136			
260	205 S0240	土師器	310 (97)			121	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰				S41			
261	205 S0240	土師器	330 (90)		320	121	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰				S42			
262	205 S0240	土師器	350 (99)			122	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰	外面・内面 コシ行			S40			
263	205 S0240	土師器	(94)			121	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰	裾部全周打			E138			
264	205 S0240	土師器	176 90 190 60		122	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰				E137			
265	205 S0240	土師器	(125)		50	121	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰	2区 AA9S0222、 1区 ST301と接合			FJ67			
266	205 S0240	土師器	(145)		53	121	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰				E139			
267	205 S0240	土師器	(96) 220 143 87		122	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰	カワ上層			E135			
268	205 S0240	土師器	(113) 214 130		126	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰				E134			
269	205 S0240	土師器	(95)		87	121	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰				E140			
270	205 S0240	土師器	155 (176) 253		144	121	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰				CH67			
271	205 S0240	土師器				121	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰				CH60			
272	205 S0240	土師器	264 (74)		230	121	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰				CH62			
273	205 S0240	土師器	244 (140)		212	122	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰				CH61			
274	205 S0240	土師器				121	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰				CH69			
275	205 S0240	土師器				121	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰				CH68			
276	205 S0240	土師器				121	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰				CH63			
277	205 S0240	土師器	90 47 56		121	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰				E241			
278	205 S0240	土師器	110 20 60		122	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰	内外面に打明			E249			
279	205 S0240	土師器	124 23 70		122	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰				E279			
280	205 S0240	土師器	156 29 120		122	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰	内外面に打明			E245			
281	205 Y12 S0240	土師器				121	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰				E160			
282	205 S0240	土師器				121	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰				E159			
283	205 Y12 S0240	土師器	(26)		62	121	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰	胎土色淡灰白色、 外面、底部無釉			E157			
284	205 S0240	土師器	114 27 44		121	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰	胎土色灰白色、 表面無釉、器入			E156			
285	205 S0240	土師器	40 (30)		122	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰	胎土色淡灰黄色、 口縁部無釉			E158			
286	205 S0240	土師器	(156) 180 74		124	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰				E161			
287	205 Y12 S0240	土師器				121	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰				E166			
288	205 S0240	土師器	334 (266) 456		330	122	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰				E166			
289	205 S0240	土師器				121	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰	20と同一			E164			
290	205 S0240	土師器				121	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰				E162			
291	205 S0244	土師器	94 (77)		54	131	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰	外面全面打			TM108			
292	205 S0244	土師器	128 (50)		91	131	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰				TM109			
293	205 S0244	土師器				121	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰				E102			
294	205 S0244	土師器	182 (59)		159	132	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰	内面裏面・底付			E101			
295	205 S0244	土師器	(37)		84	134	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰				E85			
296	205 S0244	土師器	166 (63)		117	132	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰				TM110			
297	205 S0244	土師器	174 (61)		116	138	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰				TM111			
298	205 S0244	土師器	142 (47)		124	132	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰	外面付着			S36			
299	205 S0244	土師器	176 (71)		134	132	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰				E93			
300	205 S0244	土師器	124 (52)		110	133	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰	外面付着			S31			
301	205 S0244	土師器	130 (72)		96	132	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰	内面裏面			E84			
302	205 S0244	土師器	160 (50)		126	135	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰	外面付着			E90			
303	205 S0244	土師器	184 (51)		150	132	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰	外面付着			E87			
304	205 S0244	土師器	176 (70)		160	131	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰	外面付着			E88			
305	205 S0244	土師器	340 (83)			131	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰				CH38			
306	205 S0244	土師器	227 (66)		176	133	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰	外面付着			CH39			
307	205 S0244	土師器	160 (63)		142	135	○	△	ナ	ナ	ナ	ナ	灰	灰	灰	灰	外面裏面			E99			

第2表 土器・陶磁器観察表(7)

番号	通称	図様	流量				厚さ mm	胎土		器				色調				産地	備考	家訓 番号																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
			口径 mm	底径 mm	胴径 mm	頸径 mm		好 赤	青	口縁外面	胴部外面	口縁内面	胴部内面	底部外面	外面	内面																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
308	255 SD244	土師器 小壺	192	(94)			160	□4	○	△	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ	ハナ

第2表 土器・陶磁器観察表(8)

番号	通称	器種	口径 長	底径 幅	胴径 厚	底径 厚	調査 年度	保存 状況	胎土		口縁				断面				色		産地	備	考	調査 番号	
									口縁外面	口縁内面	断面外面	断面内面	外面	内面	口縁外面	口縁内面	断面外面	断面内面							
359	255 SD244	土師器 小壺	94	86	85	30	67	底12	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	TM104
360	255 SD244	土師器 小壺	95	76	87	30	69	底12	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	TM106
361	255 SD244	土師器 小壺	74	77	90	20	64	底12	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	TM107
362	255 SD244	土師器 小壺	78	36		50		底9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	TM103
363	255 SD244	土師器 手杯	32	37	34			底12	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	E117
364	255 SD244	土師器 手杯	42	23	38			底12	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	E116
365	255 SD244	土師器 手杯	41	30	36			底12	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	E115
366	255 SD244	土師器 手杯	(25)		36			底12	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	E114
367	255 SD244	土師器 手杯						底12	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	E104
368	255 SD244	土師器 手杯	(100)					底12	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	TM68
369	255 SD244	土師器 手杯	188	(72)				底12	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	TM67
370	255 SD244	土師器 手杯	150	(49)				底12	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	TM66
371	255 SD244	土師器 手杯	(80)		92			底12	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	TM70
372	255 SD244	土師器 手杯	(30)		124			底12	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	TM69
373	255 SD244	土師器 手杯	99	52	18			底12	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	TM69
374	255 SD244	土師器 手杯	100	(46)				底12	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	TM101
375	255 SD244	土師器 手杯	114	44	18			底12	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	TM100
376	255 SD244	土師器 手杯	96	(33)				底12	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	TM102
377	255 SD244	土師器 手杯	134	42	60			底12	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	TM68
378	255 SD244	土師器 手杯	128	43	30			底12	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	TM65
379	255 SD244	土師器 手杯	130	(40)				底12	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	TM63
380	255 SD244	土師器 手杯	156	42	100			底12	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	TM67
381	255 SD244	土師器 手杯	150	(50)				底12	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	TM65
382	255 SD244	土師器 手杯	166	61	36			底12	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	TM64
383	255 SD244	土師器 手杯	(31)		52			底12	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	TM64
384	255 SD244	土師器 手杯	(52)		96			底12	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	TM65
385	255 SD244	土師器 手杯	122	85	84			底12	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	TM63
386	255 SD244	土師器 手杯	(70)		90			底12	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	TM72
387	255 SD244	土師器 手杯	126	(36)				底12	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	TM79
388	255 SD244	土師器 手杯	148	(55)	60			底12	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	TM77
389	255 SD244	土師器 手杯	152	(48)				底12	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	TM74
390	255 SD244	土師器 手杯	146	40	57			底12	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	TM80
391	255 SD244	土師器 手杯	154	40	40			底12	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	TM73
392	255 SD244	土師器 手杯	144	(40)				底12	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	TM79
393	255 SD244	土師器 手杯	164	(46)				底12	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	TM71
394	255 SD244	土師器 手杯	168	(36)				底12	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	TM76
395	255 SD244	土師器 手杯	160	(64)				底12	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	TM75
396	255 SD244	土師器 手杯	130	50				底12	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	E71
397	255 SD244	土師器 手杯	(41)					底12	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	E70
398	255 SD244	土師器 手杯	122	41				底12	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	E81
399	255 SD244	土師器 手杯	118	42				底12	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	E79
400	255 SD244	土師器 手杯	128	46				底12	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	E82
401	255 SD244	土師器 手杯	118	54				底12	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	E83
402	255 SD244	土師器 手杯	140	53				底12	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	E76
403	255 SD244	土師器 手杯	140	52				底12	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	E78
404	255 SD244	土師器 手杯	138	43				底12	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	E80
405	255 SD244	土師器 手杯	126	42				底12	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	E87
406	255 SD244	土師器 手杯	156	(52)				底12	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	E69
407	255 SD244	土師器 手杯	142	41				底12	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	E75
408	255 SD244	土師器 手杯	138	44				底12	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	E73
409	255 SD244	土師器 手杯	134	(41)				底12	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	E72
410	255 SD244	土師器 手杯	96	46				底12	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	OK25

第2表 土器・陶磁器観察表(9)

番号	通称	器種	流量				透け 1/2	胎土			器				色調		産地	備 考	実測 番号
			口径 長	底径 短	胴径 厚	底径 厚		口縁 赤	赤	口縁外面	胴外面	口縁内面	胴内面	底面外面	外面	内面			
411	255 SD244	通器底 杯身	107	53			底12	△	○	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	ナズリナナ	灰	灰	396と封ナ	CH17
412	255 SD244	通器底 杯身	(40)				底9	△	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	ナズリナナ	陶灰	陶灰		CH23
413	255 SD244	通器底 杯身	113	54			底11	○	○	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	ナズリナナ	陶灰	陶灰	2区SD240と接合	CH21
414	255 SD244	通器底 杯身	112	50			底12	△	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	ナズリナナ	灰	陶灰		CH22
415	255 SD244	通器底 杯身	119	54			底12	○	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	ナズリナナ	灰	陶灰		CH19
416	255 SD244	通器底 杯身	124	(51)			底13	○	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	ナズリナナ	灰	濃褐		CH26
417	255 SD244	通器底 杯身	125	48			底4	○	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	ナズリナナ	陶灰	灰		CH24
418	255 SD244	通器底 杯身	108	(48)			底13	○	○	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	ナズリナナ	灰	灰		CH27
419	255 SD244	通器底 杯身	144	37			底6	△	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	ナズリナナ	濃灰	陶灰		CH16
420	255 SD244	通器底 杯身	130	44			底12	△	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	ナズリナナ	陶灰	灰		CH14
421	255 SD244	通器底 杯身	125	45			底12	○	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	ナズリナナ	灰	陶灰		CH18
422	255 SD244	通器底 杯身	131	(36)			底13	○	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	ナズリナナ	濃灰	灰		CH28
423	255 SD244	通器底 杯身	(37)				底2	○	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	ナズリナナ	陶灰	陶灰		CH15
424	255 SD244	通器底 杯身	(35)				底11	○	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	ナズリナナ	濃	濃茶		CH20
425	255 SD244	通器底 杯身	(70)	78			底8	○	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	灰	灰	透穴3コ焼	TM88	
426	255 SD244	通器底 杯身	(65)	90			底2	△	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	灰白	灰白	透穴3コ焼	TM89	
427	255 SD244	通器底 杯身	(32)	66			底10	○	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	灰	灰	透穴3コ焼	TM87	
428	255 SD244	通器底 杯身	(47)	90			底6	△	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	灰白	灰		TM86	
429	255 SD244	通器底 杯身	(93)	136	30		底10	△		口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	灰	灰白		TM81	
430	255 SD244	通器底 杯身	158	37	77ナミ 30		底12	○	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	陶灰	陶灰		E51	
431	255 SD244	通器底 杯身	156	47	98		底12	○	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	ナズリナナ	陶灰	灰茶褐	底部外面黒色	E58
432	255 SD244	通器底 杯身	110	46	74		底10	△	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	ナズリナナ	陶灰	灰	内面透付刺	FJ117
433	255 SD244	通器底 杯身	138	39	110		底12	○	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	ナズリナナ	陶灰	灰		E50
434	255 SD244	通器底 杯身	124	31	82		底12	△	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	ナズリナナ	灰褐	灰褐	内面透付刺	E48
435	255 SD244	通器底 杯身	132	34	90		底12	○	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	ナズリナナ	濃灰	濃茶褐		E47
436	255 SD244	通器底 杯身	122	31	68		底11	△	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	ナズリナナ	濃茶褐	赤褐	内外面赤彩	S123
437	255 SD244	通器底 杯身	(8)	98			底12	△	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	ナズリナナ	赤褐	赤褐	内外面赤彩、黒 墨打文・模刻ナ	S126
438	255 SD244	通器底 杯身	62	(27)			底12	○	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	濃灰褐	濃灰褐		S125	
439	255 SD240-244	通器底 杯身	124	(44)			底11	△	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	ナズリナナ	灰	灰		E66
440	255 SD240-244	通器底 杯身	150	50			底13	△	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	ナズリナナ	灰白	灰白		E77
441	255 SD240-244	通器底 杯身	142	51			底6	○	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	ナズリナナ	茶褐	茶褐		E85
442	255 SD240-244	通器底 杯身	130	51			底11	○	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	ナズリナナ	灰白	灰		E72
443	255 SD240-244	通器底 杯身	122	41			底11	○	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	ナズリナナ	灰	灰		E74
444	255 SD240-244	通器底 杯身	130	53			底11 以下	○	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	ナズリナナ	陶灰	陶灰		S145
445	土師線 通器底	通器底 杯身	118	47			底11	○	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	ナズリナナ	灰	灰		S146
446	土師線 通器底	通器底 杯身	122	39	86		底7	○	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	ナズリナナ	陶灰	陶灰		EE231
447	土師線 通器底	通器底 杯身	112	46	78		底12	○	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	ナズリナナ	濃灰	濃灰		EE230
448	土師線 通器底	通器底 杯身	113	40	77		底12	○	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	ナズリナナ	陶灰	陶灰	底部外面黒色	EE232
449	土師線 通器底	通器底 杯身	(33)	76			底4	○	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	ナズリナナ	灰	灰	底部外面黒色	EE233
450	土師線 通器底	通器底 杯身	162	(43)			底11 以下	○	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	ナズリナナ	青磁	青磁	胎土色灰白色	EE229
451	土師線 通器底	通器底 杯身	(20)	58			底2	○	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	ナズリナナ	青磁	青磁	胎土色灰白色	EE228
452	255 YH403 通器底	通器底 杯身	136	(86)			底13	○	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	灰	灰		CH14	
453	土師線 通器底	通器底 杯身	276	(75)			底13	○	△	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	口70ナナ	灰	灰		EE227	

第5章 石製品

第1節 概要

畝田・寺中遺跡は縄文時代～室町時代の複合遺跡であり、各時代の様々な遺構・遺物が確認されている。本章では、本報告書で対象となっている主幹線2区から出土した石製品及び前回報告までの補遺も含めて、器種ごとに整理し報告する。そのため、石製品が属する遺構および時代について、図版上混在していることをご了承願いたい。なお、紙幅の関係により、遺物が出土した遺構・法量・石材等の詳細情報については、別途石製品観察表(第3表)を参照されたい。

第2節 石製品

454～458は礫石である。454は両端に使用痕を残す砂岩製のもので、表面に若干の剥離がみられる。455は三角柱状で、2辺に凹みがあり、凹石としての使用も想定されるが安定しない。456は卵状を呈し、両端に使用痕が顕著である。457は灰赤色を呈する小振りのものである。両端に使用痕が顕著で、側面に若干の擦痕が認められる。この2個体はそのサイズから細かな調整等の作業に適しており、玉製品等の加工・調整の用途が想定されようか。458は両端部に使用痕が認められる、太鼓状を呈する珎岩製のものである。うち1面は面的に蔽痕が顕著で、他方1面については石材の形状変化点に細かな蔽痕が認められる。

459・460は凹石として分類した。459は軟質の欠損品であるが卵形であることが窺われ、その3面に凹みが認められる。460は円盤状を呈し、表面とした側に2箇所、裏面に1箇所の凹みがある。

461は灰白色を呈するデイサイト質凝灰岩製の打製石斧である。最大長は205mm、重量は865g、形状は基部から刃部に向けて緩やかに広がる、いわゆる楔形である。462・463は磨製石斧である。462は緻密な砂岩製で、基部・刃部ともに欠損するが、太形蛤刃石斧であろう。463は側面をもつもので、462に比べ小振りである。464は磨石である。球状を呈し、その外周に約3cmの幅で擦痕が認められる。465は直縁刃石器で、変質安山岩の剥片を調整し、刃部を設けた剥片石器である。調整は必要最小限となっており、刃部には擦痕が認められる。

466～470は石錘とした。466は長卵形を呈し結合装置としての穿孔及び施溝を有する、いわゆる「九州型石錘」であるが、砂岩製であり、九州地方の普遍的なもの(滑石製)とは材質を異にする。467は結合装置として挟み加工が上面および側面に施される。468は断片であるが大きなもので、結束のための挟みが認められる。469・470は凝灰岩製で、結合装置としての孔を有する。470は断片だが卵形に復元できる。

471～478は礫石である。471は3面使用の流紋岩製だが、端部に3条の施溝があり、転用もしくは礫石以外のものの一部である可能性を残す。472は3面使用しており、石材は流紋岩である。473は不整形であるが、残存する全ての面において使用痕が認められる。474は緻密な砂岩製のもので、3面に使用痕がある。475は不整形な流紋岩製礫石である。2箇所に使用痕が確認できる。476は凝灰岩製で、4面使用と思われるが、うち1面は被熱による剥離のため断定できない。477は4面使用の流紋岩製である。478は軽石で、使用痕は1面である。

479は石皿の断片で、擦痕は一面のみである。480は輝石安山岩製の石皿である。断片だが両面に擦痕が認められ、図版向かって左側が顕著である。

481は石刀であろうか。断面は緩やかな楔形を呈し、基部は溝での施紋が確認できる。縄文時代晩期のものと考えられる。

482はSD244から出土した磨製石剣と考えられる石製品である。緑黑色を呈する粘板岩製で、基部・

刃部を欠損する。磨製石斧に似るが、中央に鐮状の加工が見受けられ、側面は左右ともに途中までを面として加工し、その後は稜として仕上げている。側面状の箇所を茎と判断し、大形であるが石剣とした。極大形磨製尖頭器、石製模造品である可能性もある。483は両刃石器で、両端につぶれた刃部をもつ。両端が欠損しており確実なことはいえないが、石剣あるいは石鐮としての用途が想定される。

484はSD244から出土した粘板岩製の硯で、裏面にも使用痕がある。表面は再研磨されているが、意図は不明である。485は播磨木状の石器である。用途は不明であるが、手にした感覚からは石器・玉類の調整具としての機能が想定できようか。

486～492は円盤状未成品である。これらは打割あるいは擦切によって中央を削り貫き、腕輪状石製品とする過程のものである。石材は変質流紋岩を主とし、色調は明緑灰色～暗緑灰色を呈する。486には中央打割に伴う剥離が認められ、その段階での破断であろう。487は破断したもので、表面側面ともに押圧による調整が認められる。488は1面が研磨されている。489～491は円形に調整されているが、いずれも剥離によって成品の厚みが確保できなくなったため、途中段階で廃棄されたものであろう。492は短辺の頂点に資料が抽出された大きな打点がある。外周調整の段階で破断、廃棄されたものか。

493・494は変質流紋岩の剥片だが、493には表面に粗い研磨が認められ、玉製品の未成品である可能性がある。495は碧玉の石核である。496は変質流紋岩の石核で、管玉等の材料である。497には石材分割のための施溝が4箇所認められる。管玉となる材を切り出したもの、あるいは管玉未成品と考えられ、手法から弥生時代中期～後期のものであろうか。498・499は翡翠の原石で、未加工品のため時代は不詳である。

500は松林山型琴柱形石製品の未成品であると考えられる。材質は硬質の変質流紋岩で、両面は主に右から左へ向かっての小さな敲打、側面は上下両面からの敲打によって整形される。軸部には下方からの打撃が目立つ。反りをもった形状となっているが、成品の形状には違ひ、さらに整形された後研磨が加えられるのであろう。

501は車輪石の成品である。復元径は約104mm、石材は縞目に入る変質凝灰岩で、節理と平行に抽出されている。鐘方分類のBV形式である。502は石剣の成品である。変質凝灰岩製で、復元径は約80mmである。

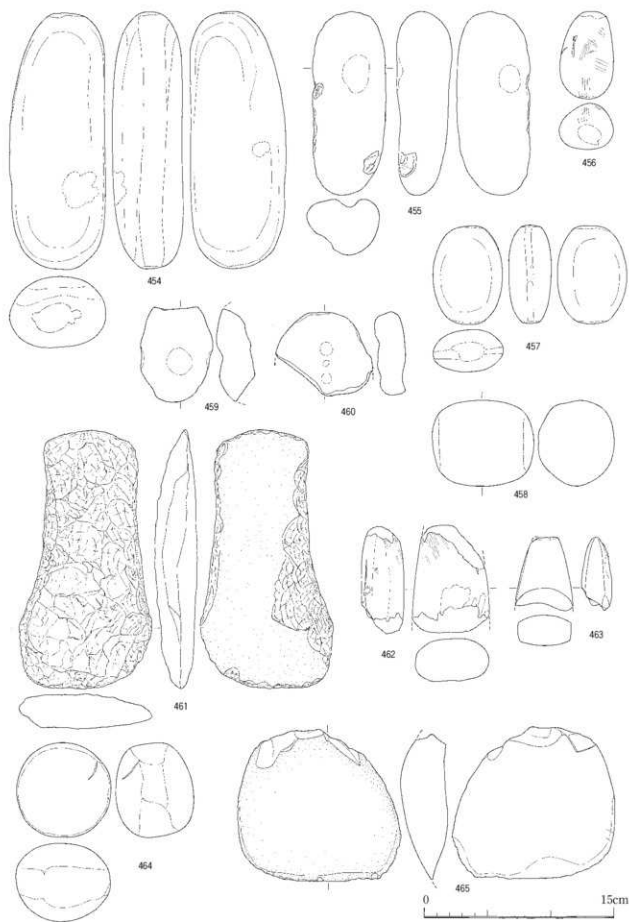
503は変質流紋岩製の剣貫円盤、504は凝灰質頁岩製の有孔円盤である。平面形は横長の円形を呈し、中央部に1孔をもつ。505は滑石製の紡錘車で、復元径は約42mm、復元孔径は約7mmである。

506～510は円盤状未成品の中央をくり抜いたもので、工程として円盤状未成品の次段階である。石材はいずれも変質流紋岩で、内面に整形のための細かな調整が認められる。507は上下面ともに角度を付けて研磨している。510は底面に研磨が認められる。

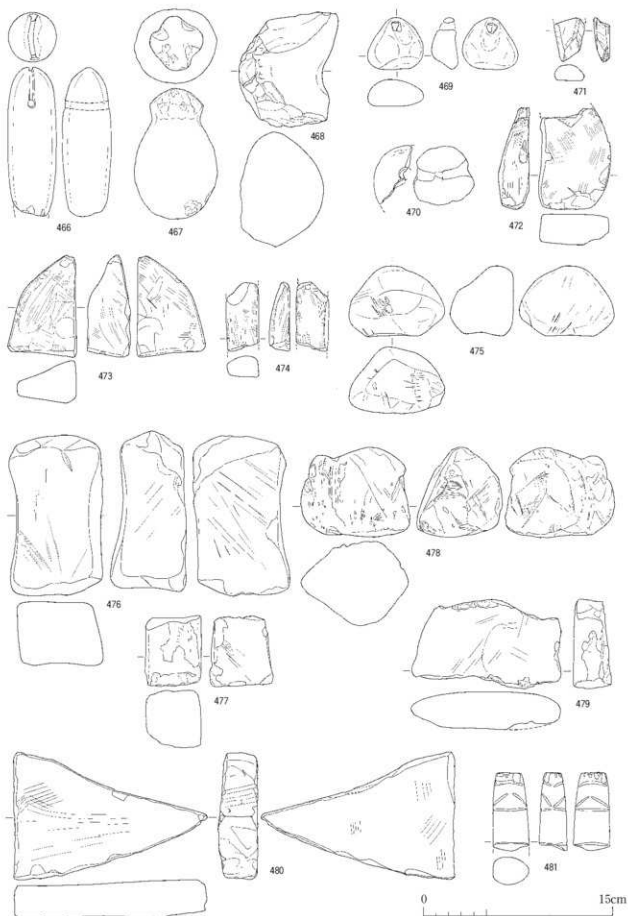
512は滑石製の白玉である。511は無斑晶質安山岩製の穿孔具で、径は514の管玉の径と一致する。513は片面穿孔、514は両面穿孔の管玉である。515～518は管玉の未成品で、517が変質凝灰岩製、ほかは碧玉製である。516には分割のための擦切が認められ、その他碧玉製のものとあわせて弥生時代中期～後期のものと考えられる。

519は蛇紋岩製の勾玉で、緑色を呈する。520は変質凝灰岩製の丁字頭定形勾玉の破片である。孔の周囲に少なくとも3条の施溝が確認できる。522は曹長石製の成品、521は滑石製の未成品である。穿孔されているが研磨による仕上げが不十分であることから未成品とした。523は滑石製の成品である。

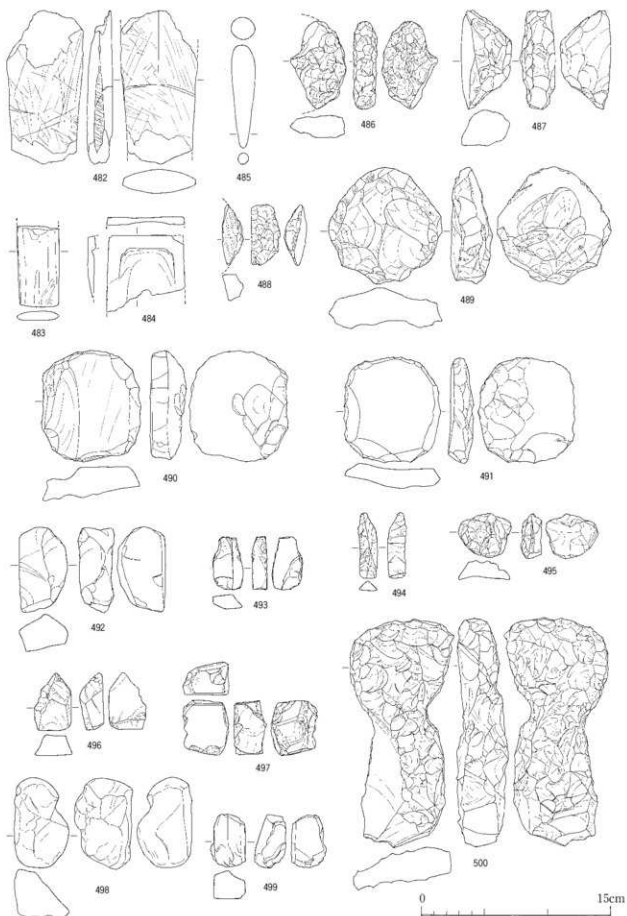
524～537は石鐮である。石材は主に無斑晶質安山岩と頁岩であるが、536の有茎のものは黄褐色を呈する珪質頁岩である。この石材は新潟県以北の日本海側に産地が限定されることから、搬入品であるといえよう。537は欠損しており、石鐮以外のものである可能性がある。



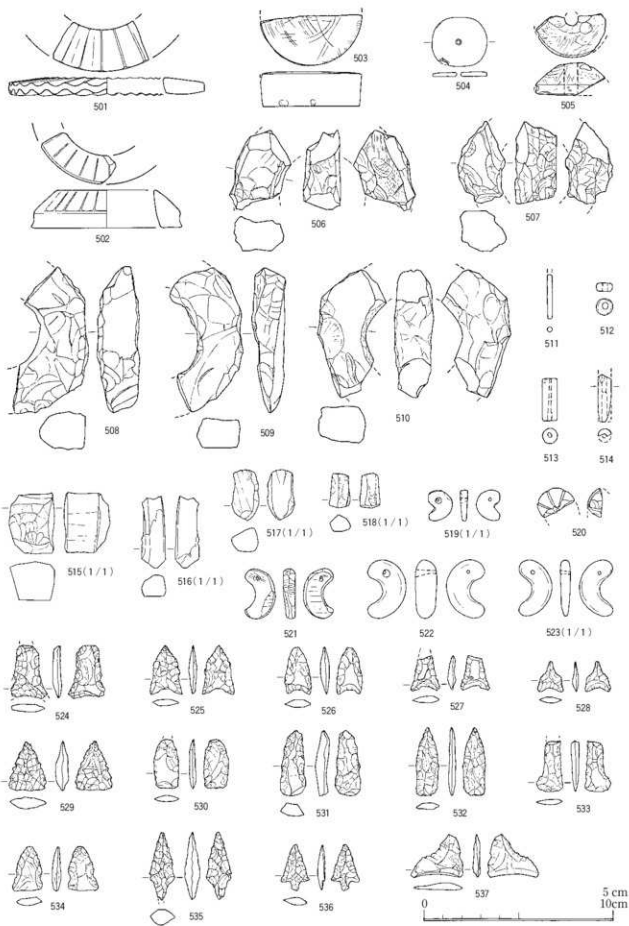
第30図 石製品 (1) (S=1/3)



第31図 石製品 (2) (S=1/3)



第32図 石製品 (3) (S=1/3)



第33図 石製品 (4) [S=1/2・1]

第3表 石製品観察表

番号	通 称	品 種	質量 (mm-g)			色 調	石材等	実測 番号	番号	通 称	品 種	質量 (mm-g)			色 調	石材等	実測 番号		
			長	幅	厚							長	幅	厚					
454	2区	SD044	240.0	75.0	56.0	1480.0	10YR6/1 にがい黄褐色	砂岩 両面使用面	A108	496	2区	SD044	45.0	35.0	19.0	20.0	7.5GY4/1 緑灰色	安賀流紋岩	A119
455	2区	SD040	145.0	53.0	44.0	473.0	2.5GY9/1 灰白色	凝灰岩 部のみ 両面使用面	E253	497	2区	SD040	44.0	37.0	26.0	55.8	10GY6/1 緑灰色	安賀流紋岩 部切り4面用	M17
456	2区	SD044	68.0	43.0	36.5	140.0	5Y3/1 オリーブ黄褐色	玄武岩 両面使用面	Q104	498	1区	SD023	71.0	45.0	36.0	190.0	2.5GY2/1 明緑灰色	翡翠	E206
457	2区	SD022	78.0	56.0	34.0	220.0	2.5YR4/2 灰色	砂岩 断面使用 両面使用面	A107	499	2区	SD034	42.0	28.0	24.0	40.0	2.5GY8/4 明緑灰色	翡翠	A121
458	2区	SD040	81.0	63.0	60.0	520.0	5YR1/1 灰色	凝灰岩 両面使用面	E252	500	2区	SD022	200.0	83.0	26.0	520.0	2.5GY3/1 明緑灰色	安賀流紋岩	A106
459	2区	SD033	74.0	57.0	28.0	170.0	2.5GY6/4 黄色	凝灰岩 3面のみあり	E200	501	1区	SD022	51.0	22.0	5.5	19.0	10GY7/1 明緑灰色	安賀流紋岩 部元104 28番	A115
460	2区	SD040	66.0	67.0	23.0	148.0	2.5Y6/4 にがい黄色	砂岩 部A3面用	E201	502	1区	SD022	47.0	15.0	20.0	9.3	7.5GY7/1 明緑灰色	安賀流紋岩 部元径80mm	G24
461	2区	SD040	255.0	105.0	34.0	865.0	7.5YR1/1 灰色	ダイヤモンド質 凝灰岩	Y41	503	2区	SD022	54.0	27.0	18.5	36.0	7.5GY7/1 明緑灰色	安賀流紋岩	A112
462	2区	SD044	85.5	61.5	34.0	250.0	7.5Y7/1 灰色	砂岩 方部・基部文様	Q107	504	1区	SD021	29.0	26.0	2.0	2.6	10Y6/2 オリーブ灰色	凝灰岩 貫通 孔径2mm	Y13
463	2区	SD033	57.0	46.0	23.0	91.8	5Y6/4 オリーブ黄褐色	凝灰岩	E204	505	3区	SD022	37.0	22.0	17.0	14.0	10Y7/1 灰白色	沸石 孔径7mm	N05
464	2区	SD044	75.0	75.0	62.0	505.0	2.5Y7/2 灰黄色	凝灰岩	Q102	506	1区	SD023	46.0	27.0	18.0	21.9	2.5GY7/1 明緑灰色	安賀流紋岩	E198
465	2区	SD022	121.0	130.0	37.0	630.0	5Y5/3 灰オリーブ色	安賀安山岩	A110	507	2区	SD023	43.0	25.5	22.0	18.5	2.5GY7/1 明緑灰色	安賀流紋岩	Y42
466	2区	SD044	116.5	38.0	38.0	220.0	5Y7/4 淡黄色	砂岩 孔径7mm	G50	508	2区	SD022	78.0	24.0	23.0	50.0	7.5GY7/1 明緑灰色	安賀流紋岩 鉄線付番	A111
467	2区	SD040	154.0	67.0	58.5	430.0	7.5Y6/1 灰色	凝灰岩 先頭部4面用	Y40	509	2区	SD040	76.0	23.0	17.0	32.0	5GY7/1 明オリーブ灰色	安賀流紋岩	A114
468	2区	SD033	81.0	65.0	66.0	750.0	2.5Y7/2 灰色	凝灰岩	E199	510	2区	SD040	66.0	25.0	19.0	42.9	2.5GY7/1 明オリーブ灰色	安賀流紋岩	E196
469	2区	SD040	41.0	44.0	21.0	45.0	7.5Y6/1 灰白色	凝灰岩 孔径8mm	N4	511	2区	SD033	24.0	2.5	3.0	0.3	5B2/1 黄褐色	無脈品質安山岩	Y22
470	2区	SD044	85.0	33.0	48.5	55.0	2.5Y7/3 淡黄色	凝灰岩 孔径9mm	E316	512	2区	SD040	4.1	4.1	2.0	0.1	7.5Y6/1 灰色	沸石 孔径1.5mm	A08
471	2区	SD044	75.0	24.0	12.0	10.0	2.5Y7/4 淡黄色	凝灰岩 部切り3面	A116	513	2区	SD040	22.5	8.3	8.3	2.2	5GY7/1 明オリーブ灰色	安賀流紋岩 片面穿孔	Q17
472	2区	SD044	80.5	57.5	24.0	143.0	7.5Y6/2 淡黄色	凝灰岩	Q108	514	2区	SD040	26.0	7.0	14.0	0.7	2.5GY7/1 明オリーブ灰色	凝灰岩 貫通 孔径穿孔	Y23
473	2区	SD022	81.0	55.0	35.0	150.0	10YR7/4 にがい黄褐色	凝灰岩 表面保付番	A109	515	2区	SD033	16.0	12.0	10.0	2.8	7.5GY3/1 明緑灰色	碧玉	A55
474	2区	SD044	54.5	26.0	16.5	23.0	7.5Y7/1 灰色	砂岩	Q105	516	2区	SD033	19.0	6.5	5.5	0.7	7.5GY3/1 明緑灰色	碧玉 部切り2面用	A56
475	2区	SD040	86.0	75.0	52.0	130.0	2.5Y6/4 淡黄色	凝灰岩	OH5	517	2区	SD033	13.2	6.1	6.2	0.5	5GY7/1 明緑灰色	安賀流紋岩	A57
476	2区	SD040	127.0	74.0	51.0	705.0	2.5Y6/3 淡黄色	凝灰岩 表面保付番	E257	518	2区	SD033	9.0	5.5	4.5	0.3	7.5GY3/1 明緑灰色	碧玉	A54
477	2区	SD044	56.0	50.0	45.0	156.0	5Y8/4 淡黄色	凝灰岩	SH 205	519	2区	SD033	8.5	6.5	2.0	0.2	2.5GY3/4 緑色	蛇紋岩	G19
478	2区	SD040	71.0	88.0	66.0	78.9	2.5Y7/2 灰色	凝灰岩	E258	520	2区	SD044	113.0	20.0	7.0	13.8	5GY7/4 明緑灰色	安賀流紋岩 孔周部溝状	N16
479	2区	SD044	119.0	71.0	30.0	340.0	10YR3/1 黄褐色	玄武岩	Q103	521	2区	SD040	26.5	16.0	6.5	4.3	10GY8/1 明緑灰色	沸石	G16
480	2区	SD044	101.0	154.0	31.0	805.0	2.5Y6/2 黄褐色	輝石安山岩	A117	522	2区	SD044	31.0	20.0	11.5	9.2	10Y7/1 灰白色	翡翠石 片面穿孔	G17
481	2区	SD033	82.0	60.0	21.0	60.7	7.5Y5/2 黄褐色	玄武岩	E202	523	2区	SD033	15.0	8.5	2.5	0.5	2.5GY4/1 明オリーブ灰色	沸石	G18
482	2区	SD044	122.0	61.0	20.0	200.0	7.5GY2/2 緑黄色	粘板岩 方部・基部文様	G49	524	2区	SD040	28.0	19.0	4.0	0.2	NA/1 灰色	無脈品質安山岩 凸面式	TM 276
483	2区	SD040	85.0	33.0	7.0	26.6	7.5Y4/1 灰色	砂岩 石部のみ	S192	525	2区	SD040	26.0	16.5	4.5	1.5	NA/1 灰色	無脈品質安山岩 凸面式	N13
484	2区	SD044	81.0	82.0	8.0	32.2	N1/1 緑灰色	粘板岩	G14	526	2区	SD040	25.0	14.0	5.0	1.4	N2/1 黄褐色	翡翠 凸面式	A49
485	2区	AA5W5	82.0	19.0	18.0	30.7	7.5YR7/1 明緑灰色	砂岩	E203	527	2区	SD040	19.0	15.0	4.0	1.0	N3/1 黄褐色	翡翠 凸面式	A50
486	2区	SD040	70.0	43.0	18.0	54.7	2.5GY7/1 明オリーブ灰色	安賀流紋岩	TM 278	528	2区	SD040	16.0	14.0	3.0	0.5	N2/1 黄褐色	翡翠 凸面式	A51
487	2区	SD040	78.0	80.0	28.0	80.0	7.5GY8/1 明緑灰色	安賀流紋岩	E256	529	2区	SD040	26.0	19.0	7.0	2.7	NA/1 灰色	無脈品質安山岩 凸面式	N12
488	2区	SD040	48.0	28.0	13.0	14.2	7.5GY7/1 明緑灰色	安賀流紋岩 1面用	TM 277	530	2区	SD040	26.0	13.0	3.0	1.5	10Y4/1 明緑灰色	無脈品質安山岩 凸面式	A45
489	2区	SD040	91.0	90.0	28.0	220.0	7.5GY8/1 明緑灰色	安賀流紋岩 表面鉄線付番	TM 279	531	2区	SD040	35.0	13.0	6.0	3.6	NA/1 灰色	無脈品質安山岩 凸面式	A46
490	2区	SD040	88.0	78.0	24.0	151.0	7.5GY8/1 明緑灰色	安賀流紋岩 表面鉄線付番	E255	532	2区	SD040	36.0	12.0	3.5	1.8	NA/1 灰色	無脈品質安山岩 凸面式	N14
491	2区	SD040	84.0	77.0	19.0	135.0	10GY6/1 緑灰色	凝灰岩 貫通 表面鉄線付番	E254	533	2区	SD040	27.0	14.0	4.5	1.6	NA/1 灰色	無脈品質安山岩 凸面式	A47
492	2区	SD033	88.0	58.0	27.0	95.0	5GY4/1 灰白色	安賀流紋岩	E205	534	2区	SD040	23.0	16.0	4.0	1.5	NA/1 灰色	無脈品質安山岩 凸面式	A43
493	2区	SD022	42.0	24.0	1.2	15.4	10Y6/2 にがい黄褐色	安賀流紋岩 オリーブ灰色	T436	535	2区	SD040	36.0	13.0	8.3	0.6	NA/1 灰色	無脈品質安山岩 凸面式	N15
494	2区	SD044	52.0	14.0	8.0	4.4	10GY7/1 明緑灰色	安賀流紋岩	G51	536	2区	SD040	25.0	15.0	4.0	0.9	2.5Y6/4 黄褐色	翡翠 凸面式	A52
495	2区	SD044	35.0	42.0	17.0	20.0	5GY4/1 明オリーブ灰色	碧玉	A120	537	2区	SD040	23.0	27.0	47.0	1.8	NA/1 灰色	無脈品質安山岩 凸面式	A44

第6章 総括

第1節 遺跡の様相

本遺跡は金沢市の西部臨海地区に所在する縄文時代以降の複合遺跡である。石川県埋蔵文化財センターと本市埋蔵文化財センターによって広い面積が調査されており、多くの成果が上がっている。

既刊書によると、弥生時代・古墳時代と中核的な様相を呈しており、特に古墳時代中・後期の遺物量は他遺跡を凌駕する。

奈良時代に入ると、津湊に関する墨書土器や官衙に関する木簡が出土しており、8世紀前半から中頃にかけての加賀郡津に比定されている。河川と両側側溝の道路状遺構の間に掘立柱建物による倉庫群が建ち並ぶ景観が復元されており、河川を通じて日本海へ至る水運の拠点としての様相が明らかとなっている。同時期の墨書土器には「津司」があるが、『続日本紀』養老四(720)年正月丙子条「渡嶋津輕の津司從七位上諸君鞍男ら六人を靺鞨国に遣して、その風俗を観せしむ」とみえ、津の管理者や渤海などとの交易も担当したような役人の存在が推定される。また「語一語」や「語成人」墨書土器からは対渤海使通訳の存在が推定されており、「天平二年」墨書土器は天平二(730)年に第一次遣渤海使が帰国した際の饗応に使用されたものと考えられている。このような墨書土器と史料から、単なる津湊にはとどまらず、渤海使節が滞在した「便処」や遣渤海使が渤海へ向かう経由地としての役割を担っていたと考えられている(小嶋2004)。同じく同時期の木簡では、加賀郡司が犬野郷長を召喚する内容のいわゆる「郡符木簡」が出土しており、郡符木簡は郡家から郡家関連施設で廃棄されることから、遺構や墨書土器の状況を鑑みて、郡津推定の根拠とされている。

平安時代になると、津の機能は戸水C遺跡(第3図47)へ移るようだが、遺跡自体は存続している。10世紀代は低調であり、11世紀に再び人為的な活動がみられるようになる。

中世については、11世紀から16世紀頃の遺構・遺物が確認されているが、主体は平安時代末から南北朝時代の12世紀後半～14世紀頃である。堀で圍繞された空間が検出されており、西堀と南堀は全域、北堀と東堀はその一部を確認している。南北220m、東西170mという方二町×一町半程度の空間を堀で圍繞しており、その中央東よりに道路状遺構が南北に延びている。堀の外に該当する地点にも掘立柱建物や井戸等の中世遺構が広がっており、時期も同時期である。

既刊書からみた本遺跡の概略は以上のとおりだが、本調査区では、古墳時代中・後期と奈良時代から平安時代初頭の遺物群が多く出土している。それらは、SD303からSD240・244と北流する川跡からの出土であり、流れを少しずつ変えながらも長期間にわたって同じような位置に流路があったことがわかる。川の延伸は主幹線3区SD201、主幹線4区大河跡が該当する。また、SD240から出土している平安時代末から鎌倉時代にかけての遺物も同様であり、規模は小さいながらも前時代の川跡と重複して北流し、主幹線3区のSD222、主幹線4区のSD210へと繋がっていく。出土量が多い古墳時代の遺物では、中・後期の須恵器や土師器の食器が多く、煮炊具では甕の長胴化や甕が組成の一定量を占めることを特徴とする。移動式竈も存在し、新たな調理方法が当該期に導入されたことを示す好例といえる。同じく大量に遺物が出土している奈良時代から平安時代では、8世紀後半から9世紀初頭頃(田嶋編年Ⅳ期、第4章参照)の土師器・須恵器が多く出土している。当該期の遺構群は8世紀中頃に境に南側から北側(本調査区に南接)に動いており(出越2012)、その動向を示すものと考えられる。

なお、紙幅の都合によって同調査区から出土した木製品や金属製品は本書に掲載できなかった。木製品では横鉋や杵、多又鉋、火切臼、弓、靴、漆器椀、折敷などがあり、土製品では輪の羽口や土鉢、金属製品では鎌や刀子、古銭、鉄滓などが出土しており、次巻以降の掲載を予定している。(向井)

第2節 畝田・寺中遺跡の玉つくりについて

1. はじめに

本節では、出土した管玉・腕輪形石製品等、一般的に緑色凝灰岩と称される石材を用いて製作された石製品から本遺跡の特徴を述べる。なお、石製品観察表(第3表)の石材欄で、肉眼鑑定結果により碧玉・変質凝灰岩・変質流紋岩・凝灰質頁岩と記載のあるものは、本節では便宜上緑色凝灰岩として呼称を統一することをご了承願いたい。

2. 畝田・寺中遺跡の玉つくり

北陸地方における玉つくりは、山陰からの文化伝播の一要素として伝わり、福井県瓶谷在田遺跡で弥生時代中期前葉のものが確認され、これにやや遅れて石川県内でも小松市八日市地方遺跡・金沢市矢木ヅワリ遺跡などで生産が開始されている。中期中葉から後葉になると当該期に属するほとんどの遺跡で小規模な玉つくりが行われていたことが確認でき、畝田・寺中遺跡の本報告中においても、弥生時代中後期に属すると考えられる施溝分割技法を用いた硬質の緑色凝灰岩製の石核(497)および管玉未成品(515・516)がある。

古墳時代に入ると北陸における玉つくりは大きく変化し、特定支配層を対象とした宝器・祭器を生産するようになるが、本遺跡でも腕輪形石製品の製作工程である円盤状未成品(486~492)、環状未成品(506~510)、剣貫円盤(503)、松林山式琴柱形未成品(500)が出土している。その全てが溝出土の資料であり、明確な製作工房を比定することはできないが、調整具としての小型敲石(456・457)や加工具(485)の存在も、当該期における生産を示す補完資料となろう。

ここでは当該期において現在までに確認されている県内の石製品製作遺跡との比較をととして、本遺跡の石製品製作遺跡としての位置付けを考えてみたい。なお、ここでの石製品製作遺跡とは腕輪形石製品等の未成品および剣貫円盤、剣貫円盤からの製作が想定される紡錘車形石製品が出土した遺跡を対象としている。この条件で県内で現在までに確認されている石製品製作遺跡は24を数え、主なものを第34図に示した。製作遺跡の分布は北加賀地域、能美地域、江沼地域に集中しているが、調査例の多寡が影響していることが推察されている。

車輪石および石鈎の未成品のみを検出した遺跡が多い中で、鋳形石その他の未成品が出土した遺跡が存在する。威信財としての腕輪形石製品には鋳形石・車輪石・石鈎の順に緩やかな階層性があることが指摘されており、階層上位の鋳形石未成品を伴う遺跡は加賀市片山津玉造遺跡や片山津城山遺跡、富塚遺跡など江沼地域に集中している。北加賀地域の金沢市藤江B遺跡で原石として報告されているものが鋳形石未成品となる可能性があるものの、少々小型である。白山市浜竹松B遺跡では38点に及ぶ腕輪形石製品未成品が出土しているが、すべてが外径11cm未満であり、鋳形石や大型車輪石未成品と確認できる資料はなく、これらのことから階層的に上位である大型の腕輪形石製品については、限られた特定の遺跡で生産されていた可能性が指摘されている。

腕輪形石製品以外の未成品が確認された遺跡もまた限られており、羽咋市の太田ニシカワダ遺跡で鋳形未成品が2点、金沢市藤江C遺跡で琴柱形未成品1点、片山津玉造遺跡で鋳形未成品2点、合子形未成品1点が確認されているのみである。先述した上位階層性と関連づけるならば、これらの石製品を生産する遺跡もまた限定されていた可能性があるといえよう。本遺跡では県内初となる松林山式琴柱形石製品未成品の出土があり、県内に存する多くの石製品製作遺跡の中でも特例として注目される。また、本遺跡で出土した車輪石(501)は完成品の断片と考えられるが、断面に層理状の縞模様を観察でき、北加賀産石材で製作される他の未成品等と石材産地を異にする。これは周辺に存在する他

遺跡では確認されておらず、この車輪石が本遺跡で生産されたものとするならば、県内における石製品製作の1拠点として、あわせて本遺跡の特徴を示す資料となろう。

本遺跡の東方およそ200mには、河川跡から古墳時代初頭の弧帯文板・漆塗木杖の出土をみた畝田遺跡がある。漆塗木杖は頭部のみの出土であるが、その形状は松林山式琴柱形石製品と同様にみえる。畝田遺跡出土の弧帯文板および漆塗木杖は、当時の地域が中央と強い結びつきを持っていたことを示す資料であると考えられ、本遺跡の石製品製作遺跡としての性格を考えるうえで参考となろう。

3. まとめ

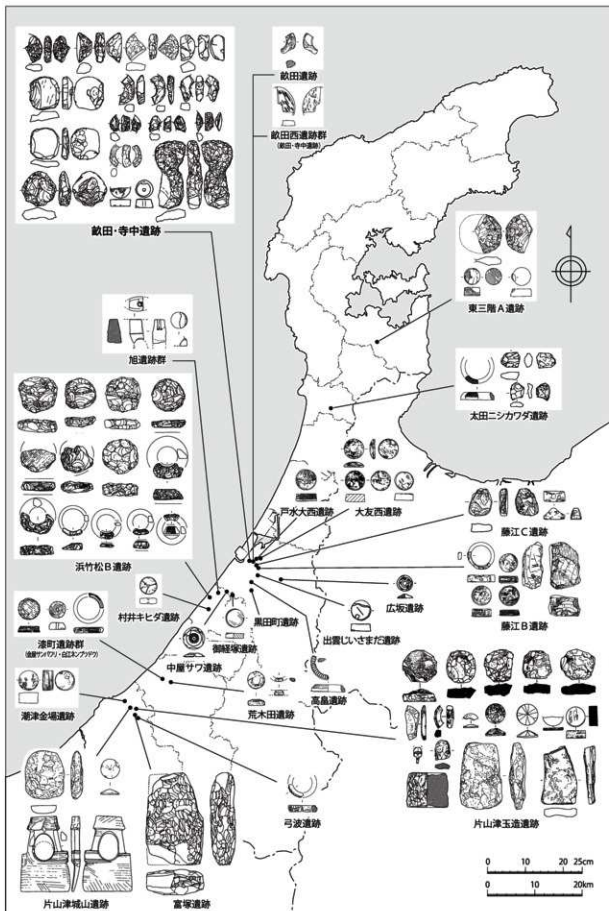
以上を総括すると、本遺跡の玉づくりは弥生時代中後期から始まっており、そこでは周辺当該期の集落と同じく施溝分割の技法を用いた管玉生産が行われていたと考えられる。古墳時代に入ると威信財としての腕輪形石製品、大型の琴柱形石製品、おそらくはその他各種の宝器をも製作する、北陸における石製品生産の1拠点としての性格を有する遺跡として捉えることが可能であるといえよう。

(景山)

再掲：石材鑑定対照表

平成14年度～16年度にかけて行った木曳野遺跡群発掘調査の発掘調査において出土した石製品のうち110点について、バリノ・サーヴェイ株式会社にて委託し肉眼観察による石材鑑定を行っている(第1分冊P25～29)。今回報告文についてここに再掲し、第1分冊との対照を図ることとしたい。なお、詳細については第1分冊を参照願いたい。

番号	器種	図版番号	対照表番号	鑑定石材	備考	実測番号	番号	器種	図版番号	対照表番号	鑑定石材	備考	実測番号
1	勾玉	第33図-522	表18-1	曹長石	2区 SD244	G17	16	石鉢	第33図-525	表19-4-2	無珉品質 安山岩	2区 包含層	N13
2	環	第32図-484	表18-2	粘板岩	2区 SD244	G14	17	石鉢	第33図-532	表19-4-3	無珉品質 安山岩	2区 包含層	N14
3	管玉	第33図-513	表18-3	変質凝灰岩	2区 SD240	Q17	18	石鉢	第33図-535	表19-4-4	無珉品質 安山岩	2区 包含層	N15
4	勾玉 未成品	第33図-521	表18-4	滑石	2区 SD240	G16	19	石鉢	第33図-526	表19-5-1	頁岩	2区 包含層	A49
5	勾玉	第33図-523	表18-5	滑石	2区 SD303	G18	20	石鉢	第33図-527	表19-5-2	頁岩	2区 包含層	A50
6	白玉	第33図-512	表18-8	滑石	2区 AA 8 W 5	A58	21	石鉢	第33図-528	表19-5-3	頁岩	2区 包含層	A51
7	丁字鏡 定形勾玉	第33図-520	表18-9	変質凝灰岩	2区 SD244	N16	22	石鉢	第33図-536	表19-5-4	珪質頁岩	2区 包含層	A52
8	石銅	第33図-502	表18-14	変質凝灰岩	1区 包含層	G24	23	石鉢	第33図-534	表19-6-1	無珉品質 安山岩	2区 包含層	A43
9	勾玉	第33図-519	表18-15	粘板岩	2区 SD303	G19	24	石鉢?	第33図-537	表19-6-2	無珉品質 安山岩	2区 包含層	A44
10	有孔皿	第33図-504	表19-1	凝灰質頁岩	2区 SD222	Y13	25	石鉢	第33図-530	表19-6-3	無珉品質 安山岩	2区 包含層	A45
11	管玉 未成品	第33図-518	表19-3-3	碧玉	2区 SD303	A54	26	石鉢	第33図-531	表19-6-4	無珉品質 安山岩	2区 包含層	A46
12	管玉 未成品	第33図-515	表19-3-4	碧玉	2区 SD303	A55	27	石鉢	第33図-533	表19-6-5	無珉品質 安山岩	2区 包含層	A47
13	管玉 未成品	第33図-516	表19-3-5	碧玉	2区 SD303	A56	28	石針	第33図-511	表19-7-1	無珉品質 安山岩	2区 包含層	Y22
14	管玉 未成品	第33図-517	表19-3-6	変質凝灰岩	2区 SD303	A57	29	管玉	第33図-514	表19-7-2	凝灰質頁岩	2区 包含層	Y23
15	石鉢	第33図-529	表19-4-1	無珉品質 安山岩	2区 包含層	N12							



第34図 石川県における石製品製作遺跡



SB508 (西から)



SB701 (西から)



SK208 (南東から)



SK209 (南から)



SE251 (西から)



SE252 (南から)



SD222・SD259 (東から)



SD222・SD240 (北西から)



SD244・SD240 (南西から)



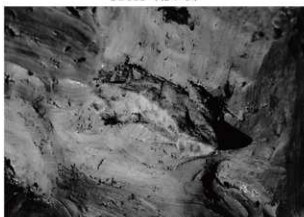
SD240 土器出土状況 (北東から)



SD303 (北から)



SD303 土器出土状況 (北西から)



SD240 環状未成品出土状況



SD240 円盤状未成品出土状況



SD244 勾玉出土状況



作業風景



37



111



71



112



123



136



137



219



264



277



291



324



350・351・353・354



382



360



362



425



402



407



415



421



434



437



438



小型敲石 (456・457)



打製石斧・磨製石斧 (461・462・463)



石鏟 (466・467・469・470)



砥石 (471～474・476・477)



石皿 (479・480)



石刀 (481)



磨製石剣・両刃石器 (482・483)



加工具 (485)



車輪石・石鋸・割貫円盤 (501~503)



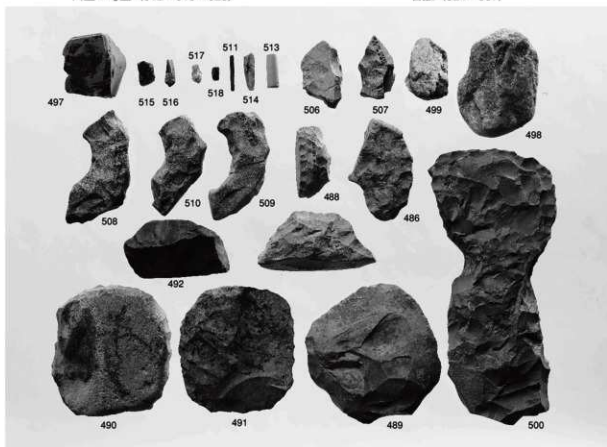
有孔円盤・紡錘車 (504・505)



白玉・勾玉 (512・519~523)



石鏃 (524~537)



畝田・寺中遺跡出土の玉つくり関連遺物

【第5・6章 引用・参考文献】

- 伊藤雅文 2008 『古墳時代の王権と地域社会』学生社
- 伊藤雅文 2011 『古墳時代石製品製作における回転機材について』『勝部明生先生喜寿記念論文集』
- 大賀克彦 2002 『弥生・古墳時代の玉』『考古資料大観9 弥生・古墳時代』小学館
- 河村好光 2010 『倭の玉器 玉つくりと倭国の時代』青木書店
- 小嶋芳孝 2004 『北加賀の古代遺跡4～古代加賀の港湾と史的背景～』『石川考古学研究会々誌 第47号』石川考古学研究会
- 出越茂和 2012 『古代北陸の津湊と交通』『日本海を行き交う人・モノ・文化Ⅱ』富山市教育委員会
- 平井 勝 1991 『弥生時代の石器』ニュー・サイエンス社
- 平川 南 2006 『特論 畝田西遺跡群出土文字資料と古代港湾都市』『畝田西遺跡群Ⅵ』
- 北條芳隆 2002 『古墳時代前期の石製品』『考古資料大観9 弥生・古墳時代』小学館
- 三浦俊明 2007 『北陸における古墳時代前期の石製品生産』『石川県立博物館紀要第19号』
- 向井裕知 2010 『中世加賀の町場と区画』『中世都市研究15 都市を区切る』新人物往來社
- 石川考古学研究会 1996 『石川県考古資料調査・集成事業報告書 武器・武具・馬具Ⅰ』
- 石川考古学研究会 1997 『石川県考古資料調査・集成事業報告書 祭祀具Ⅱ』
- 石川考古学研究会 2000 『石川県考古資料調査・集成事業報告書 装身具Ⅱ』
- 石川考古学研究会 2001 『石川県考古資料調査・集成事業報告書 補遺編』
- 大阪府立弥生文化博物館 2005 『北陸の玉と鉄』
- 石川県立埋蔵文化財センター 1991 『宮丸遺跡・村井北遺跡・北出遺跡・村井キヒダ遺跡・米永古屋敷遺跡』
- 石川県立埋蔵文化財センター 1991 『畝田遺跡』
- 石川県立埋蔵文化財センター 1997 『潮津遺跡群』
- (財)石川県埋蔵文化財センター 2000 『金沢市藤江C遺跡Ⅲ』
- (財)石川県埋蔵文化財センター 2001 『金沢市藤江B遺跡Ⅰ』
- (財)石川県埋蔵文化財センター 2001 『金沢市藤江C遺跡Ⅰ』
- 石川県教育委員会 2002 『金沢市藤江B遺跡』
- 石川県教育委員会 2005 『金沢市畝田西遺跡群Ⅱ』
- 石川県教育委員会 2006 『金沢市畝田西遺跡群Ⅲ』
- 石川県教育委員会 2006 『金沢市畝田西遺跡群Ⅳ』
- 石川県教育委員会 2006 『金沢市畝田東遺跡群Ⅲ』
- 石川県教育委員会 2009 『七尾市東三階A遺跡』
- 加賀市教育委員会 1963 『加賀片山津玉造遺跡の研究』
- 金沢市教育委員会 1994 『金沢市藤江B遺跡(第2次)』
- 金沢市 2000 『戸水大西遺跡Ⅰ』
- 金沢市 2002 『大友西遺跡Ⅱ』
- 金沢市 2005 『出雲じいさだ遺跡Ⅰ』
- 金沢市 2004 『金沢市史 通史編Ⅰ』
- 羽咋市教育委員会 1999 『太田ニシカワタ遺跡』
- 松任市教育委員会 1993 『松任市浜竹松B(竹松北)遺跡』

報告書抄録

ふりがな	いしかわけん かなざわし うねだ・じちゅういせき 8							
書 名	石川県 金沢市 畠田・寺中遺跡Ⅷ							
副 書 名	－木曳野遺跡群－							
巻 次	Ⅷ							
シリーズ名	金沢市文化財紀要							
シリーズ番号	288							
編集者氏名	景山和也、向井裕知							
編 集 機 関	金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）							
所 在 地	〒920-0374 金沢市上安原南60番地 In (076) 269-2451							
発行年月日	平成25（2013）年3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いしかわけん 石川県 金沢市 畠田・寺中 遺跡	いしかわけん 石川県 金沢市 寺中町、 畠田西4丁目	172014	県01499 市029	36° 36° 33°	136° 42° 33°	20020715～ 20020920 20030602～ 20031128 20040502～ 20041029	約13,760㎡	区画整理
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
畠田・寺中 遺跡	集落跡	縄文・弥生・古墳・ 奈良・平安・鎌倉・ 室町		建物、井戸、土坑、溝、川		土師器 須恵器 陶磁器 石製品	川跡から古 墳時代の土 器・石器が 多数出土	
要 約	木曳野遺跡群Ⅳで報告した古墳時代、奈良・平安時代の河川跡の続きやその他の遺構の報告を行った。主幹線2区は主に古墳時代中後期、奈良・平安時代の河川跡と平安時代末から鎌倉時代の堀が中心で、その他では掘立柱建物や素堀の井戸状土坑などが見つかった。							

石川県 金沢市

畠田・寺中遺跡Ⅷ －木曳野遺跡群Ⅷ－

『金沢市文化財紀要』288

平成25年3月29日発行

編集 金沢市

発行 金沢市埋蔵文化財センター

〒920-0374 石川県金沢市上安原南60番地

TEL (076) 269-2451 FAX (076) 269-2452

株式会社 栄光プリント

〒920-0806 金沢市神宮寺3-4-17

TEL (076) 251-3076

印刷